

10月31日(火) 9:15~12:00 A会場

次の南海トラフ巨大地震に向けて (A01-A11) (講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 酒井慎一・石原 靖・須田直樹

- 9:15 A01 ISSによる西南日本の震源再決定 °牧 正
- 9:30 A02 プレート境界で発生する南海トラフ巨大地震とプレート内で発生した2004年紀伊半島南東沖の地震の関係
°酒井慎一・山田知朗・萩原弘子・篠原雅尚・金沢敏彦(東大地震研)・高波鐵夫(北大)・日野亮太(東北大)・
清水 洋(九大)・尾鼻浩一郎・小平秀一・金田義行(海洋研究開発機構)
- 9:45 A03 四国沖と日向灘におけるプレート間地震の最大マグニチュードの違いに関する一考察 —日向灘トライ
アングルの提唱— °吉岡祥一(九大理院)
- 10:00 A04 東海のTectonic Force Balance(改訂版) °松村正三(防災科研)
- 10:15 A05 東海長期的スロースリップに伴う地震活動の変化とテクトニクスモデル
°鎌谷紀子(気象庁地震火山部)・勝間田明男(気象研究所)
- 10:30 A06 南海トラフにおける海底圧力と地震発生の季節性:海洋大循環モデルからの再考
°日置幸介(北大理院)・片岡 健(北大理)
- 10:45 A07 海溝・トラフ域で発生する低周波イベントの活動様式 °石原 靖(IFREE/JAMSTEC)
- 11:00 A08 四国西部の深部低周波地震の震源メカニズム推定
°井出 哲(東大理地球惑星科学)・中村 祥(東大地震研)・
David R. Shelly・Gregory C. Beroza(Stanford Univ.)
- 11:15 A09 四国東部における低周波微動と固体地球潮汐との相関について
°中田令子・須田直樹(広島大院理)・鶴岡 弘(東大地震研)
- 11:30 A10 自動モニタリングシステムで見る深部低周波微動の活動
°須田直樹・中田令子・久須見健弘(広島大院理)
- 11:45 A11 深部低周波微動を用いたプレート境界すべりのモニタリングの可能性
°渡辺朋子・平松良浩(金大院自然)・小原一成(防災科研)

10月31日(火) 9:15~12:00 B会場

地殻変動・GPS・重力(B01-B11) (講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 村上 亮・里 嘉千茂・三浦 哲

- 9:15 B01 山崎断層のクリープ可能性 —伸縮計30年観測の結果—
°渡辺邦彦・森井 互・大谷文夫・細 善信(京大防災研)・板場智史(産総研)
- 9:30 B02 我が国の水平速度分布と地質構造の関係 —活断層と火山帯での運動の類似性—
°長澤寛和・木村英雄・武田聖司(原子力機構)
- 9:45 B03 伊豆東部の群発地震活動に先行する地殻変動 °村上 亮(国土地理院)
- 10:00 B04 伊豆半島—銭洲海嶺のGPS速度とサイスマテクトニクス
°田部井隆雄(高知大理)・木股文昭・宮島力雄・村瀬雅之(名大環境)
- 10:15 B05 沈み込み帯における温度・深さに依存する粘性構造がプレート間大地震の余効変動に及ぼす影響
°片木 武(京大防災研)・吉岡祥一(九大理院)・橋本 学(京大防災研)

* は招待講演

- 10:30 B06 GPS データから推定された 2005 年宮城県沖地震 (M 7.2) に伴う余効すべりの時空間変化
 °飯沼卓史・三浦 哲・油井智史・佐藤俊也・立花憲司・長谷川 昭 (東北大理)
- 10:45 B07 2003 年十勝沖地震の余効すべり分布: 地下構造を考慮したグリーン関数に基づく推定
 °里嘉千茂 (東京学芸大学)・馬場俊孝・堀 高峰・兵藤 守・金田義行 (海洋研究開発機構)
- 11:00 B08 ABIC に基づく地震地殻変動データの非線形インバージョン解析: 未知の傾斜角を持つ断層への適用
 °深畑幸俊 (東大理)・Tim J WRIGHT (Univ. Oxford)
- 11:15 B09 1923 年関東地震の静的断層モデル: 西相模湾断裂を考慮した地殻変動データインバージョン (第 2 報)
 °田淵裕司 (神戸大院自然)・石橋克彦 (神戸大都市安全)・吉岡祥一 (九大理院)
- 11:30 B10 アラスカ州南東部における氷河後退に伴う高速地殻隆起の総合測地観測—プロジェクトの概要と GPS 観測—
 °三浦 哲 (東北大)・佐藤忠弘 (国立天文台)・孫 文科 (東大地震研)・藤本博己 (東北大)
- 11:45 B11 アラスカ州南東部における氷河後退に伴う高速地殻隆起の総合測地観測—重力潮汐観測—
 °佐藤忠弘 (国立天文台)・三浦 哲 (東北大)・孫 文科 (東大地震研)・藤本博己 (東北大)

10月31日(火) 9:15~12:00 C会場

津波, 地震の理論・解析法 (C01-C11) (講演時間 12 分・質疑応答 3 分)

座 長 藤井雄士郎・平田賢治・石橋克彦

- 9:15 C01 2005 年ニアス津波とスマトラ島近海の津波規模の偏差 °羽鳥徳太郎
- 9:30 C02 2006 年 7 月 17 日インドネシア国 Java 中部南方沖地震による津波の浸水高さ分布について
 °都司嘉宣 (地震研)・韓 世燮 (韓国地震情報研究所)・Fachrizal・
 Indra Gunawan (インドネシア気象庁)・加藤照之 (地震研)
- 9:45 C03 P 波の高周波震動継続時間と最大変位振幅を使ったマグニチュードの推定: 2006 年 7 月 17 日ジャワ地震への適用
 °原 辰彦 (建築研究所国際地震工学センター)
- 10:00 C04 2006 年 7 月ジャワ島沖地震の津波波形インバージョン
 °藤井雄士郎 (建築研国地)・佐竹健治 (産総研活断層)
- 10:15 C05 数値シミュレーションによる宮古諸島における古津波の波源域の推定
 °中村 衛 (琉球大理)・伊良部秀輔 (京大理)
- 10:30 C06 目撃証言報告に基づく 1952 年十勝沖地震の津波波源の北東縁の検討 (その 2)
 °平田賢治 (海洋研究開発機)・佐竹健治 (産総研)・山木 滋 (シーマス)・谷岡勇市郎 (北大地震セ)・
 山中佳子 (東大地震研)・西村卓也 (国土地理院)
- 10:45 C07 震度分布・地変分布・津波浸水高分布から推定した, 宝永 (1707) および安政南海 (1854) 地震の断層モデル
 °行谷佑一・都司嘉宣 (東大地震研)
- 11:00 C08 津波数値計算における初期値の誤差と計算結果との関係について —断層すべり分布の空間位置変化と津波高さ—
 °長谷川洋平 (気象研究所)
- 11:15 C09 日本海の未知の大地震による津波のシミュレーション: 若狭湾北方沖の場合
 °石橋克彦 (神戸大都市安全)・原田智也 (神戸大院自然)
- 11:30 C10 沖合のケーブル式海底津波計を用いたリアルタイム津波予測: 概念設計
 °対馬弘晃・日野亮太・藤本博己 (東北大)・谷岡勇市郎 (北大)
- 11:45 C11 クロスオーバーコンボリューションを用いた精密震源決定アルゴリズム
 °武田哲也 (防災科研)

10月31日(火) 9:15~12:00 D会場

強震動・地震災害(D01-D11) (講演時間12分・質疑応答3分)

座長 加藤研一・竹中博士・増田 徹

- 9:15 D01 1968年十勝沖地震と1994年三陸はるか沖地震の震度インバージョン解析結果—短周期地震波発生域とアスペリティ
°武村雅之・神田克久(鹿島小堀研)・水谷浩之(東京電力)
- 9:30 D02 1938年塩屋崎沖地震群のアスペリティの抽出結果と相似地震の関係
°加藤研一(鹿島小堀研究室)・植竹富一・金谷淳二・敦賀隆史(東京電力)
- 9:45 D03 経験的グリーン関数法を用いた2005年8月宮城県沖の地震の震源モデルの推定(2)
°鈴木 亘・岩田知孝(京大防災研)
- 10:00 D04 海溝型巨大地震の特性化震源モデル作成におけること
°野津 厚(港空研)
- 10:15 D05 2003年5月26日宮城県沖のスラブ内地震(MJ7.1)のすべり速度
°浅野公之・岩田知孝(京大防災研)
- 10:30 D06 震度データに基づく1855年安政江戸地震の震源位置・規模の推定
°引田智樹(鹿島技術研)
- 10:45 D07 16世紀から18世紀のM7クラスの豊後水道近傍の地震の震源域と規模の推定
°神田克久・武村雅之(鹿島小堀研)・高橋利昌・浅野彰洋・大内泰志・川崎真治(四国電力)
- 11:00 D08 経験的グリーン関数法による強震動評価と震度分布情報を用いた1891年濃尾地震の震源モデルの推定
°栗山雅之・岩田知孝(京大防災研)・隈元 崇(岡大理)
- 11:15 D09 P波を用いたアスペリティのリアルタイム・イメージング:リアルタイム強震動予測/推定へ向けて
°竹中博士(九州大)・山本容維(地盤研究財団)
- 11:30 D10 動力学震源インバージョン解析による1997年3月鹿児島県北西部地震の震源過程
°後藤浩之(京大防災研)・宮腰 研(地盤研究財団)・澤田純男(京大防災研)
- 11:45 D11 アスペリティの特徴
°増田 徹(応用地質)・横田 崇(気象庁)

10月31日(火) 12:50~14:05 A会場・B会場(中継)

若手学術奨励賞記念講演(講演時間20分・質疑応答5分)

- 12:50 エンベローブ解析に基づく震源からの高周波エネルギー輻射 中原 恒
- 13:15 固体破壊の物理過程と断層運動との関係についての実験的・理論的研究 上西幸司
- 13:40 強震記録を用いた震源過程の分析と強震動予測手法の開発 関口春子

10月31日(火) 14:15~18:15 A会場

次の南海トラフ巨大地震に向けて(A12-A25) (講演時間12分・質疑応答3分)

座長 小原一成・廣野哲朗・山中佳子・小平秀一

- 14:15 A12 沈み込むプレート境界遷移領域で発生する超低周波地震
°伊藤喜宏・小原一成・汐見勝彦・関根秀太郎・廣瀬 仁(防災科研)
- 14:30 A13 沈み込むプレート境界遷移領域で同時発生する3種類のスロー地震—深部低周波微動・超低周波地震・短期的スロースリップ—
°小原一成・伊藤喜宏・関根秀太郎(防災科学技術研究所)

- 14:45 A14 高感度加速度計アレイによって捉えられた超低周波地震の時空間分布
 °浅野陽一・伊藤喜宏・小原一成 (防災科学技術研究所)
- 15:00 A15 フィリピン海プレートの沈み込みに伴う九州東部下における深部低周波地震
 °戸田真実子 (九大理府)・吉岡祥一 (九大理院)
- 15:15 A16 台湾チェルンプ断層掘削計画 HoleB コア試料分析の成果速報 —南海地震発生帯掘削のパイロットプロジェクトとして—
 °廣野哲朗(大阪大)・徐 垣・林 為人・谷川 亘・谷水雅治・石川剛志・菊田宏之(高知コア研JAMSTEC)・木下正高 (IFREE JAMSTEC)・伊藤久男・青池 寛 (CDEX JAMSTEC)・橋本善孝・池原 実・三島稔明・村山雅史 (高知大)・大槻憲四郎 (東北大)・福地龍郎 (山口大)・曾根大貴・嶋本利彦 (京大)・藤本光一郎 (学芸大)・増田幸治・高橋美紀・松林 修 (産総研)・多田井 修・坂口真澄 (MWJ)
- 15:30 A17 物質科学的強度降下と地震学的応力降下の比較とその意味 °田中秀実 (東大)
- 15:45 A18 沈み込み断層帯における圧力溶解クリープの選択的促進 °川端訓代・田中秀実 (東大)
- 16:00 休憩
- 16:15 A19 再考—1944年東南海地震— °山中佳子 (東京大学地震研)
- 16:30 A20 1946年南海地震津波の数値実験による最大水位分布
 °阿部邦昭 (日本歯大新潟短大)・堀内茂木 (防災科研)
- 16:45 A21 High-resolution 3-D Seismic Reflection Survey in the Nankai Subduction Zone off Kumano of Kii Peninsula, SW Japan
 °Jin-Oh PARK・Tetsuro TSURU・Tetsuo NO・Kaoru TAKIZAWA・So SATO・Yoshiyuki KANEDA (IFREE JAMSTEC)
- 17:00 A22* 海溝型巨大地震と地下構造 —南海トラフ地下構造研究の成果—
 °小平秀一・朴 進午・仲西理子・堀 高峰・金田義行 (海洋研究開発機構)
- 17:15 A23 東南海・南海地震破壊域下限付近の海陸境界深部構造
 °仲西理子・小平秀一・三浦誠一・伊藤亜妃・佐藤 壮・朴 進午・金田義行 (海洋機構)・伊藤 潔・梅田康弘・廣瀬一聖 (京大防災研)・伊藤谷生 (千葉大)・佐藤比呂志・平田 直 (東大地震研)・阿部 進・川中 卓・井川 猛 (地科研)
- 17:30 A24* 南海トラフ沿いに発生する歴史的巨大地震の短周期地震波発生域とアスペリティ
 °武村雅之・神田克久 (鹿島小堀研)
- 17:45 A25* 南海トラフ巨大地震と長周期地震動
 °古村孝志・早川俊彦・額綱一起 (東大地震研)・馬場俊孝・金田義行 (IFREE JAMSTEC)・中村 操 (防災情報サービス)
- 18:00 総合討論

10月31日(火) 14:15~18:15 B会場

地殻変動・GPS・重力, 地震に伴う諸現象, 活断層と古地震 (B12-B26)

(講演時間 12分・質疑応答 3分)

座 長 望月将志・岩瀬良一・青柳恭平・松浦律子

- 14:15 B12 水中測距信号に見る音響トランスデューサ特性の影響
 °望月将志 (東大生産研)・石川直史・松本良浩・藤田雅之 (海洋情報部)・浅田 昭 (東大生産研)
- 14:30 B13 GPS 音響結合方式による福島県沖での繰り返し海底精密測位
 °水上知子・藤本博己・長田幸仁・木戸元之・西野 実・荻原庸平・対馬弘晃・本堂周作・柳沼 直 (東北大予知セ)

- 14:45 B14 駿河湾での海底地殻変動観測 —再現性と手法評価—
 °杉本慎吾 (名大院環境)・生田領野 (東大地震研)・田所敬一・安藤雅孝・奥田 隆・相澤義高・
 安田 仁 (名大院環境)・佐柳敬造・長尾年恭 (東海大海洋研)
- 15:00 B15 2003 十勝沖地震に伴う電離層擾乱
 °綿田辰吾 (東大地震研)・大林政行 (海洋開発機構)・小沢真三郎 (国土地理院)
- 15:15 B16 新野における 2004 年紀伊半島南東沖地震の地震動と地電位変動
 °村上英記 (高知大理)・山田 守 (名大院環境)・中山 武
- 15:30 B17 伊豆半島東方沖地震に伴う泥流と海底環境変動
 °岩瀬良一・後藤忠徳 (JAMSTEC)・菊池年晃 (防衛大)・水谷孝一 (筑波大院)
- 15:45 休憩
- 16:00 B18 海嶺の地形断面に基づく日本海東縁部の震源断層の検討 (2) °青柳恭平・阿部信太郎 (電力中央研)
- 16:15 B19 養老・桑名断層境界部における P 波反射法地震探査
 °石山達也 (産総研)・越後智雄・岡田真介 (東大理)・戸田 茂 (愛教大)・佐藤比呂志 (東大地震研)・
 小池太郎・佐藤 良・鈴木貴司 ((株)ジオシス)
- 16:30 B20 鹿島断層 (島根半島) 東部におけるトレンチ調査
 °渡辺満久 (東洋大)・中田 高 (広島工業大)・奥村晃史・熊原康博 (広島大学)・後藤秀昭 (福島大学)・
 隈元 崇 (岡山大学)・今泉俊文 (東北大学)・徳岡隆夫・吹田 歩 (徳岡汽水研)
- 16:45 B21 原子力発電所設置審査における活断層評価の問題点
 °中田 高 (広島工業大学)・渡辺満久 (東洋大学)・鈴木康弘 (名古屋大学)
- 17:00 B22 「日本列島のテクトニクスモデル」による京浜地震、中央構造線超巨大地震等々の「理論的予測」の GPS に
 による検証 °正村史朗 (総合科学研究所)
- 17:15 B23 小田原市周辺の主な地震の発生日及び発生場所と月の位置との相関—その 1. 相関— °末 芳樹
- 17:30 B24 歴史地震の震源域位置および規模の系統的再検討—第 8 報— (飛越地震など 8 地震)
 °松浦律子 ((財)地震予知振興会)・中村 操・唐鎌郁夫 (防災情報サ)
- 17:45 B25 Korea 地域と西南日本の地震活動 —1700 年 4 月 29 日慶尚道南部の地震—
 °大内 徹 (神戸大都市安全)・張 泰雨 (慶北大)・久保篤規 (高知大)・原田智也・
 田淵祐司 (神戸大自然)
- 18:00 B26 2006 年 5 月 27 日中部ジャワ地震に対する名古屋大学環境学研究所による地震学・社会学の緊急国際共
 同調査
 °木股文昭・安藤雅隆・奥田 隆・M. Irwan・太田雄策・中道治久・田所敬一・田中重好・田淵六郎・
 高橋 誠・木村玲欧・林 良嗣 (名古屋大学院環境)

10 月 31 日 (火) 14:15~18:15 C 会場

地震の理論・解析法, 地球惑星深部構造と物性 (C12-C26) (講演時間 12 分・質疑応答 3 分)

座 長 羽佐田葉子・武尾 実・利根川貴志・竹内 希

- 14:15 C12 層構造を形成するランダム媒質におけるスカラー波エンベロープの直接的導出方法
 °齊藤竜彦 (東大地震研)・佐藤春夫 (東北大理)・高橋 努 (海洋研究開発機構)
- 14:30 C13 弾性波アクロスで取得されるテンソル伝達関数の性質
 °熊澤峰夫 (静大理)・羽佐田葉子 (東海大海洋研)・國友孝洋・藤井直之 (静大理)
- 14:45 C14 Interpretation of tensor transfer function acquired by seismic ACROSS
 °Weipeng HUANG (Shizuoka Univ.)・Yoko HASADA (Tokai Univ.)・Mineo KUMAZAWA・
 Takahiro KUNITOMO (Shizuoka Univ.)・Yasuhiro YOSHIDA (MRI)

- 15:00 C15 Frequency-dependent nature of seismic wave observed by ACROSS—Decomposition into wave elements by Sompi Event Analysis—
 °羽佐田葉子 (東海大海洋研)・熊澤峰夫・黄 為鵬・國友孝洋・藤井直之 (静大理)・中島崇裕 (東海大海洋研)
- 15:15 C16 微動の非線形ダイナミクスの検証 °武尾 実 (東大地震研)
- 15:30 C17 ユーラシア大陸のマントル構造と地震・火山活動 °趙 大鵬・山田 朗 (愛媛大深部ダイナミクス)
- 15:45 C18 フレンチ・ポリネシア広帯域海底地震観測による遠地 P 波走時異常
 °田中 聡・末次大輔 (JAMSTEC)・塩原 肇 (東大地震研)・杉岡裕子・大林政行・深尾良夫 (JAMSTEC)・金沢敏彦 (東大地震研)
- 16:00 C19 マリアナ深発地震の P 波後続波から推定される下部マントル反射面
 °末次大輔・大林政行・杉岡裕子 (海洋研究開発機構)
- 16:15 休憩
- 16:30 C20 遠地実体波の自己相関解析による上部マントル構造推定 °利根川貴志・古本宗充・渡辺俊樹 (名大環)
- 16:45 C21 波形インバージョンによる D'' 層の微細構造推定:新しいモデルパラメータの検討
 °河合研志 (東工大理工)・竹内 希 (東大地震研)・ゲラーロバート・富士延章 (東大理)
- 17:00 C22 波形インバージョンによる遷移層構造推定へ向けた観測点補正について
 °富士延章 (東大理)・河合研志 (東工大理工)・ゲラーロバート (東大理)
- 17:15 C23 波形インバージョンで見るスラブの滞留様式 °竹内 希 (東大地震研)
- 17:30 C24 Body wave travel time anomalies caused by stagnant slab
 杉岡裕子・末次大輔・°大林政行・深尾良夫 (海洋研究開発機構)・高 原 (中国地震局)
- 17:45 C25 マントルの粘性構造がスラブの沈み込みと海溝後退に及ぼす影響
 °多川道雄・中久喜伴益・田島文子 (広島大院理)
- 18:00 C26 海溝の後退とマントルの粘性構造に着目したスタグナントスラブの数値シミュレーション
 °鳥井 翼 (九大理府)・吉岡祥一 (九大理院)

10月31日(火) 14:15~18:15 D会場

強震動・地震災害 (D12-D26) (講演時間 12 分・質疑応答 3 分)

座長 川瀬 博・中原 恒・功刀 卓・呉 長江

- 14:15 D12 ジャワ島中部地震の被害域と地下構造 °川瀬 博・中村壮志 (九大)
- 14:30 D13 2006 年 5 月 27 日ジャワ島中部地震の経験的グリーン関数法による Realtime-JISNET 広帯域地震動シミュレーション
 °岩田知孝 (京大防災研)・青井 真・井上 公 (防災科研)・Pri Harjadi (インドネシア気象地球物理庁)
- 14:45 D14 理論的エンベロープグリーン関数を用いた強震動評価法
 °中原 恒 (東北大)・加藤研一 (鹿島小堀研)・佐藤春夫 (東北大)
- 15:00 D15 統計的グリーン関数法による地震動評価のばらつきと平均スペクトルを用いた再合成
 °永野正行 (鹿島小堀研究室)
- 15:15 D16 統計的震源モデルと半無限平行成層グリーン関数による高振動数強震動の計算法
 °久田嘉章 (工学院大)
- 15:30 D17 経験的グリーン・テンソル法による強震動シミュレーション
 °大堀道広 (東工大都市地震工学)・久田嘉章 (工学院大建築)
- 15:45 D18 動力学的断層破壊過程および経験的グリーンテンソルに基づく地震動予測
 °ブリード ネルソン (防災科研)・ダルゲール ルイス (サンディエゴ市大地質)・藤原広行 (防災科研)

- 16:00 D19 An application of site response functions to ground motion prediction
 °津田健一・Ralph ARCHULETA・Jamison STEIDL (UCSB)
- 16:15 休憩
- 16:30 D20 実時間逐次処理に適した計測震度相当値の概算方法
 °功刀 卓・青井 真・中村洋光・藤原広行・安達繁樹 (防災科研)
- 16:45 D21 長周期地震動における震度評価
 °青木治三 (東濃地震科研)
- 17:00 D22 緊急地震速報の精度評価と手法改善
 °大竹和生・清本真司・森本雅彦・関田康雄・齋藤 誠・吉野昌史・東田進也 (気象庁)
- 17:15 D23 緊急地震速報とP波センサーによる震度推定精度の比較
 °堀内茂木・山本俊六・中村洋光・呉 長江・入倉孝次郎 (防災科研)・東田進也・大竹和生 (気象庁)
- 17:30 D24 Improving the realtime predictions of shaking intensities using a 3-dimensional Q model beneath the Japan Islands
 °Changjiang WU・Shigeki HORIUCHI・Shunroku YAMAMOTO (NIED)
- 17:45 D25 緊急地震速報を「揺れる前の情報」として活用するための課題
 °浅原 裕 (先端力学シミュレーション研)・大角恒雄 (日本工営)
- 18:00 D26 地震時の死者低減に注目した住家の耐震性向上 (7) —東海4県・県別・市区町村別死者数の算定—
 °太田 裕 (東濃地震科研)・中嶋唯貴 (名古屋工大)

11月1日(水) 9:15~12:00 A会場

次の南海トラフ巨大地震に向けて (A26-A36) (講演時間12分・質疑応答3分)

座長 藤原 治・木戸元之・堀 高峰

- 9:15 A26* 遺跡で認められた南海トラフの巨大地震の痕跡
 °寒川 旭 (産総研活断層)
- 9:30 A27* 見えてきた巨大南海地震の再来周期
 岡村 真・°松岡裕美 (高知大理)・千田 昇 (大分大教育福祉)・島崎邦彦 (東大地震研)
- 9:45 A28* 地層・地形記録による南海トラフ周辺の巨大地震・津波の履歴解明:現状と展望
 °藤原 治 (産総研活断層)
- 10:00 A29 遺伝的アルゴリズムを用いた地震発生サイクルモデルの摩擦パラメータインバージョン
 °光井能麻・堀高 峰・金田義行 (海洋研究開発機構)・平原和朗 (京大理)
- 10:15 A30* 南海トラフ巨大地震発生サイクルのシミュレーションと期待される地殻変動
 °堀 高峰・小平秀一・馬場俊孝・金田義行 (海洋研究開発機構)・平原和朗 (京大理)
- 10:30 A31 水準測量データから見た東海地域におけるプレート境界挙動の時空間変動 —1944年東南海地震に先立つスロースリップの可能性—
 °鷲谷 威・大石 陽 (名大環境)
- 10:45 A32 GEONETおよび紀伊半島・四国稠密GPS臨時観測データを用いた南海トラフ沿いのプレート間カップリングの推定
 °小林知勝・橋本 学 (京大防災研)・田部井隆雄 (高知大)
- 11:00 A33 熊野灘における海底地殻変動観測の現状と今後の展望
 °木戸元之・藤本博己・長田幸仁・三浦 哲 (東北大予知セ)・田部井隆雄 (高知大理自然環境)
- 11:15 A34 南海トラフ沿いの海底地殻変動観測
 °松本良浩・石川直史・河合晃司・藤田雅之・矢吹哲一朗 (海洋情報部)・望月将志・浅田 昭 (東大生研)
- 11:30 A35 南海トラフ近傍での海底地殻変動観測:現状と展望
 °田所敬一・安藤雅孝・奥田 隆・杉本慎吾・安田 仁・武藤大介・相澤義高 (名大)・生田領野 (東大地震研)・久野正博 (三重科技振センター)
- 11:45 A36 用いたデータによるすべり欠損の推定結果の違いを生む原因の考察
 °落 唯史・加藤照之 (東大地震研)

11月1日(水) 9:15~11:00 B会場

断層帯内部状態変化のモニタリング (B27-B33)

(講演時間 10分・質疑応答 2分, 招待講演は講演時間 13分・質疑応答 3分)

座長 山岡耕春・吉岡直人・阪口 秀

- 9:15 趣旨説明 山岡耕春(東大地震研)
- 9:20 B27* 高周波地震波のアレイ・散乱解析による断層帯での微細不均質性の空間分布と物性量
°蓬田 清(北大理)・平 貴昭(カーネギー DTM)
- 9:36 B28* 散乱波・トラップ波による断層帯の深部構造のモニタリング °西上欽也(京大防災研)
- 9:52 B29 非常に密に分布する亀裂群から成る断層破碎帯の散乱減衰・速度分散・反射特性 °村井芳夫(北大理)
- 10:04 B30* 弾性波による断層面の接触状態のモニター(レビュー) °吉田真吾・永田広平・中谷正生(東大地震研)
- 10:20 B31 せん断過程によって変化するガウジ層内の波動伝播特性
°阪口 秀(海洋研究開発機構)・吉岡直人(横浜市大)・堀 高峰(海洋研究開発機構)
- 10:32 B32 山崎断層系土万断層の AMT 法による電気伝導度構造探査
°山口 覚(神戸大理)・小川康雄(東工大火山流体)・氏原直人(東工大理工)・藤田清士(神戸大理)・
井口博夫(兵庫県大環境人間)・大志万直人(京大防災研)
- 10:44 B33* ここまで来た弾性波アクロス送信装置 °國友孝洋(静大理)

11月1日(水) 11:00~12:00 B会場

切迫する大地震に向けた地域防災の新展開 (B34-B37) (講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 鈴木康弘・山口 勝

- 11:00 B34 歴史災害調査を核とした地域防災力向上のための協同活動の展開 °林 能成・木村玲欧(名大環境)
- 11:15 B35 地域住民との交流を通じた防災力向上の試み—名古屋市・地域特性に応じた防災力向上検討委員会の活動を通して—
°木村玲欧・林 能成・大友章司(名大環境)・元吉忠寛(名大学教育発達)・神田幸治(名工大工)・
福留邦洋(新潟大災害復興)・後藤隆一((株)ウェザーニューズ)・近藤民代(人と防災未来センター)
- 11:30 B36 2004年新潟県中越地震における小千谷市応急対応実施状況調査—市町村応急対応モデルとの比較—
°小山真紀(東濃地震科研)・翠川三郎(東工大)
- 11:45 B37 大地震発生後の「水」の確保とその供給 —『井戸』の活用など— °木村正彦(中部電力)

11月1日(水) 9:15~12:00 C会場

地震計測・処理システム, 地震一般・その他, 地殻構造 (C27-C37)

(講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 大久保慎人・勝間田明男・古村孝志

- 9:15 C27 弾性波アクロス送信規約試案—中部地域における送信周波数の割り当て— °國友孝洋(静大理)
- 9:30 C28 静岡大学におけるアクロス研究 —可搬型弾性波アクロス送信装置の開発—
°市原光太郎(静大院理工)・國友孝洋(静大理)・羽佐田葉子(東海大海洋研)・熊澤峰夫(静大理)
- 9:45 C29 深部低周波地震の臨時観測 °大久保慎人・鈴木貞臣・藤井 巖(東濃地震科研)
- 10:00 C30 $\Delta\Sigma$ 変調器の試作と評価試験 °木下 繁夫(横浜市大)

- 10:15 C31 浅間山山頂域で観測された長周期火山性地震の波形インバージョン
 °前田裕太(東工大理工)・武尾 実・大湊隆雄(東大地震研)
- 10:30 C32 Seismic source of the 2006 May 27, Yogyakarta-Indonesia earthquake from aftershocks and broadband records
 °Meilano Irwan・安藤雅孝・木股文昭・奥田 隆・武藤大介(名大院環境)・Hasanuddin Z. ABIDIN・Bambang SETYADJI・Mipi A. KUSUMA・Heri ANDREAS・MGAMAL(バンドン工大 インドネシア)・Arif RAHMAN (Ristek インドネシア)
- 10:45 C33 十勝沖および宮城県沖の地震で見られる sP 波の特徴
 °真保敬・佐藤魂夫(弘前大理工)
- 11:00 C34 震源計算のための三次元速度構造
 °勝間田明男(気象研)
- 11:15 C35 Hi-net 高感度加速度計の脈動記録を用いた日本列島 S 波速度構造の推定
 °西田 究・川勝 均(東大地震研)・小原一成(防災科研)
- 11:30 C36 A study of Lg attenuation around the Korean Peninsula
 °鄭 泰雄(世宗大)・盧 明鉉(原子力安全技術院)・楊 雨宣(韓国 CRAY)・金 浚經(世明大)
- 11:45 C37 構造不均質により生まれる地震波伝播の異方性
 °古村孝志・齊藤竜彦(東大地震研)

11月1日(水) 9:15~12:00 D会場

強震動・地震災害, 学校教育と知識普及 (D27-D37) (講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 箕 楽磨・畑山 健・根本泰雄

- 9:15 D27 東京湾岸における広帯域強震観測 その1 伊豆半島東方沖の地震による長周期後続波
 °土方勝一郎・野口厚子・植竹富一(東京電力)
- 9:30 D28 東京湾岸における広帯域強震観測 その2 2005年11月15日三陸沖の地震による記録
 °植竹富一・野口厚子・土方勝一郎(東京電力)
- 9:45 D29 東北日本弧の減衰構造とスラブ内地震による強震動: 震源の位置と深さによる違い
 °箕 楽磨(神戸大理)・西條裕介(構造計画研)
- 10:00 D30 関東平野における震度分布の異常
 °竹内宏之・古村孝志(東大地震研)
- 10:15 D31 西南日本の異常震域に対応するための距離減衰式補正係数
 °森川信之(防災科研)・神野達夫(広島大)・成田章(MSS)・藤原広行(防災科研)・福島美光(清水建設)
- 10:30 D32 不均質なフィリピン海プレート内における高周波のトラップ —エンベロープ解析による検討—
 °ペトゥヒン アナトリ(地盤研究財団)
- 10:45 D33 2003年十勝沖地震の際の苫小牧・勇払平野における長周期地震動:(3) 平野の平面的形状の影響
 °畑山 健(消防研)
- 11:00 D34 首都圏における強震動評価 (1): 関東地震
 °三宅弘恵・額織一起(東大地震研)・小林励司(鹿児島大理)・田中康久・池上泰史(東大地震研)
- 11:15 D35 迫り来る東南海地震に対して三河地域の揺れはどうなるか —経験的サイト増幅度・位相特性を考慮した強震動評価—
 °倉橋 奨・正木和明・入倉孝次郎(愛知工業大学)
- 11:30 D36 巨大地震時における長周期構造物の被害予測と被害軽減化対策
 °入倉孝次郎(愛知工大)・釜江克宏・川辺秀憲(京大原子炉実験所)・佐藤俊明・壇 一男(清水建設)・中川佳久(安井建築設計)・斉藤賢二・土肥 博(NTT ファシリティーズ)
- 11:45 D37 SPP における高等学校と大学との連携による地震教育の試み —屈折法地震探査実践授業—
 °根本泰雄(阪市大院理)・岡本義雄(大教大附高天王寺)

11月1日(水) 13:00~14:00 A会場

次の南海トラフ巨大地震に向けて (A37-A39) (講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 平原和朗

- 13:00 A37 南海トラフ巨大地震発生サイクルと西南日本内陸地震の発生
°平原和朗(京大・理)・堀 高峰(IFREE JAMSTEC)・兵藤 守(ESC JAMSTEC)・
光井能麻(IFREE JAMSTEC)
- 13:15 A38 紀伊半島沖の先進的な海底ネットワークシステムの整備について
°金田義行・川口勝義・荒木英一郎・松本浩幸・中村武史・神谷眞一郎・堀 高峰・馬場俊孝・
満澤巨彦(海洋研究開発機構)
- 13:30 A39 琉球海溝からの沈み込みは非地震性か? —海底地殻変動観測の必要性
°安藤雅孝(名大)・中村 衛・松本 剛・古川雅英(琉大)・田所敬一・古本宗充(名大)
- 13:45 総合討論

11月1日(水) 14:00~17:30 A会場

岩石実験・地殻応力, 地球化学・地下水, 地震発生の物理 (A40-A52)

(講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 角森史昭・小笠原 宏・山下輝夫

- 14:00 A40 ダナイト試料の地震波減衰における水の影響
°相澤義高(名大)・Auke BARNHOORN・John FITZ GERALD・Uli FAUL・Ian JACKSON(ANU)
- 14:15 A41 台湾 Chelungpu 断層掘削 Hole-B の孔内イメージ検層による応力方向の解析結果速報
°林 為人・伊藤久男・木下正高・廣野哲朗・谷川 亘・徐 垣(JAMSTEC)・葉 恩肇(NTU)・
王 乾盈(NCU)
- 14:30 A42 震源核形成・成長に伴う AE の波形変化をとらえる試み(2) —圧盤設計と実験概要
°川方裕則(立命大)・高橋直樹(三井住友建設)・西澤 修(産総研)・高橋輝雄・三浦 勉(京大)
- 14:45 A43 岩石から放出される微量成分ガスの精密測定 °小泉早苗・角森史昭・野津憲治(東大理地殻化学)
- 15:00 A44 御前崎 500 m 井の地下水に含まれるメタン濃度の変動
°角森史昭・野津憲治(東大理地殻化学)
- 15:15 A45 活断層破碎帯から採取した断層岩の粉碎時の地殻ガス放出/生成実験
°齊藤友比古・田中秀実(東大理)
- 15:30 休憩
- 15:45 A46 深度 2~3 km の南アフリカ金鉱山における水没に伴う地震活動や岩盤挙動の観察(序報:背景と目的・
準備状況)
南アフリカ金鉱山における半制御地震発生実験国際共同グループ(°小笠原 宏 立命大)
- 16:00 A47 Initial Rupture of Microearthquakes in a Deep Gold Mine in South Africa
°山田卓司・Rachel E. ABERCROMBIE(ボストン大地球科学)・井出 哲(東大院理地惑)・
中谷正生(東大地震研)・飯尾能久(京大防災研)・小笠原 宏(立命館大理工)
- 16:15 A48 地震の始まりの始まり—再び—
°飯尾能久(京大防災研)・堀内茂木(防災科研)・大見士朗(京大防災研)・伊藤久男(JAMSTEC)・
桑原保人(産総研)・山本英二・小村健太郎(防災科研)・三浦浩一(元京大)・芝崎文一郎(建築研)・
佐藤春夫(東北大理)

- 16:30 A49 真実接触面積の時間発展：断層強度回復メカニズム解明に向けて
 °木津貴章・城野信一・渡邊誠一郎（名大環境）
- 16:45 A50 すべりと時間に依存する断層構成則を発展則として採用したすべり速度・状態依存摩擦則の検討
 °前原 港・亀 伸樹（九大理）
- 17:00 A51 高圧間隙流体の移動による余効すべりの発生機構
 °山下輝夫（東大地震研）
- 17:15 A52 破砕帯とアスペリティーとからなる断層模型：エネルギー収支 °山本清彦・矢部康男（東北大院理）

11月1日（水） 13:00～17:30 B会場

切迫する大地震に向けた地域防災の新展開（B38-B52）（講演時間 12分・質疑応答 3分）

座長 福和伸夫・鈴木康弘・山口 勝

- 13:00 B38 個人防災に焦点を当て地域防災も視野に入れた被害評価ツールの開発（地震動入力—建物耐震評点—棟死亡率の3者間関数化の試み）
 °岡田成幸（名工大）・高井伸雄（北大）・田畑直樹（東海日動リスクコンサル(株)）・名知典之（北大）・中嶋唯貴・石田隆司（名工大）
- 13:15 B39 利用者が必要とする緊急地震速報利活用システムとは？—緊急地震速報の利用レベルと具備すべき機能—
 °鷹野 澄（東大地震研）
- 13:30 B40 地震研究の成果を地域防災に活かす °鈴木康弘（名大環境地震火山防災）
- 13:45 B41* 「地震発生長期評価」を社会に理解してもらうために °島崎邦彦（東大地震研）
- 14:00 B42* 「強震動予測」を防災に活かす °入倉孝次郎（愛知工大）
- 14:15 B43 科学ジャーナリズムから見た近年の地震研究と社会応用 °山口 勝（NHK）
- 14:30 B44* 媒体から触媒へ、中間的存在だからこそつなぎ役に °中川和之（時事通信社）
- 14:45 B45* 災害報道・防災報道の「こころ」 °大牟田智佐子（毎日放送）
- 15:00 休憩
- 15:15 B46* 地域防災力向上のための報道の役割 °武居信介（中京テレビ報道部）
- 15:30 B47* 地震リスク情報の発信・伝達に関する課題 °小山真人（静大教育）
- 15:45 B48* 東北での地域防災の展開—地域と学校の連携の教育プログラムを考える— °今村文彦（東北大工災害制御）
- 16:00 B49 東海・東南海地震に備えた地域協働の仕組み作り °福和伸夫（名大）
- 16:15 B50* 地震対策の現場から—市の防災責任者から見た側面— °岡嶋 守（前名古屋危機管理官）
- 16:30 B51* 市民・NPOの立場から見た研究者・学会への期待 °栗田暢之（NPO レスキューストックヤード）
- 16:45 B52* 研究者と地域防災をつなぐ科学コミュニケーション °隈本邦彦（北大科学技術コミュニケーター養成ユニット）
- 17:00 総合討論

11月1日（水） 13:00～17:30 C会場

地殻構造（C38-C54）（講演時間 12分・質疑応答 3分）

座長 高橋成実・西澤あずさ・汐見勝彦・高橋 努

- 13:00 C38 九州北西部の地殻・上部マントルの地震波速度構造
 °雑賀 敦・松本 聡・植平賢司（九大地震火山）・村越 匠（防衛大）・清水 洋（九大地震火山）

- 13:15 C39 海底地震計による観測データを使用した日向灘域の地震波速度構造
 °田原道崇・中田正夫（九大理）・植平賢司・清水 洋（九大地震火山）・山田知朗・望月公廣・
 篠原雅尚（東大地震研）・西野 実・日野亮太（東北大理）・八木原 寛・宮町宏樹（鹿児島大理）・
 馬越孝道（長崎大環境）・合田政次（長崎大水産）・松尾のり道（九大地震火山）・
 金沢敏彦（東大地震研）
- 13:30 C40 Double-Difference Tomography 法による宮城県沖地震震源域の地震波速度構造
 °山本揚二郎・日野亮太・鈴木健介（東北大理）・山田知朗・篠原雅尚・金沢敏彦（東大震研）・青木 元・
 田中昌之（気象庁）・金田義行（海洋研究開発機構）
- 13:45 C41 2003 年十勝沖地震震源域から 1973 年根室半島沖地震震源域にかけての千島海溝における地殻構造
 °東 龍介・高波鐵夫・村井芳夫・町田祐弥・牧野由美・齊藤市輔（北大理）・日野亮太・
 対馬弘晃（東北大理）・金沢敏彦・篠原雅尚・望月公廣・山田知朗（東大地震研）・
 佐藤利典・丸山友章（千葉大理）
- 14:00 C42 エアガン, OBS, 海底孔内広帯域地震計 (WP2) を用いた北西太平洋海盆の最上部マントル・地殻地震
 波速度構造
 °深野哲生・篠原雅尚・中東和夫・山田知朗・望月公廣・金沢敏彦（東大地震研）・荒木英一郎・
 末廣 潔（海洋研究開発機構）
- 14:15 C43 伊豆小笠原弧の島弧－背弧境界域構造
 °高橋成実・小平秀一・海宝由佳・三浦誠一・佐藤 壮・山下幹也・野 徹雄・瀧澤 薫・
 金田義行（海洋研究開発機構）
- 14:30 C44 伊豆・小笠原弧火山フロント直下の構造変化と地殻成長過程
 °小平秀一・佐藤 壮・高橋成実・伊藤亜妃・三浦誠一・金田義行（海洋研究開発機構）
- 14:45 C45 フィリピン海盆上の沖大東海底崖近傍における地震波速度構造
 °西澤あずさ・及川光弘・金田謙太郎（海洋情報部）・笠原順三（(株)日本大陸棚調査）
- 15:00 C46 伊豆半島東方沖の浅部地殻構造とテクトニクス
 °山下幹也・木下正高（海洋研究開発機構）・酒井慎一（東大地震研）・佐藤 壮・高橋成実・
 金田義行（海洋研究開発機構）
- 15:15 休憩
- 15:30 C47 新しいフィリピン海スラブ形状モデルの構築～静岡県西部から九州北部まで～
 °汐見勝彦・松原 誠・小原一成（防災科研）
- 15:45 C48 西南日本におけるフィリピン海スラブ形状の推定
 °上野友岳・澁谷拓郎・土井一生・伊藤 潔（京大防災研）
- 16:00 C49 3-D Velocity Structure in the Bungo Channel and Shikoku Area, Japan, and its Relationship to
 Low-frequency Earthquakes °Andri Dian NUGRAHA・Jim MORI (DPRI)
- 16:15 C50 Seismic anisotropy beneath the southwest Japan forearc from analysis of shear-wave splitting
 °Mohamed K. SALAH・瀬野徹三・飯高 隆（東大地震研）
- 16:30 C51 高周波数 S 波エンベロープ最大振幅遅延時間から推定した西南日本におけるランダム速度不均質の空
 間分布 °高橋 努（海洋研究開発機構）
- 16:45 C52 紀伊半島北西部における地震波速度の異方性と地質構造
 °松波孝治（京大防災研）・中村正夫（大津市）・郷 隆之（京大防災研）
- 17:00 C53 中部地方プレート境界地震で観測される顕著な後続波 °山田功夫（名大環境）
- 17:15 C54 A new approach of crustal phases identification and its applications
 °Mohamed F. ABDELWAHED・Dapeng ZHAO (Ehime Univ.)

11月1日(水) 13:00~17:15 D会場

地盤構造・地盤震動 (D38-D53) (講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 飯田昌弘・山中浩明・吉本和生・川崎慎治

- 13:00 D38 東京の山手, 下町, 埋立区域における波動場 °飯田昌弘(東大地震研)
- 13:15 D39 KiK-net 日野観測点における鳥取県西部地震後の地盤増幅特性の異方性とその経時変化の検出
°澤崎 郁・佐藤春夫・中原 恒・西村太志(東北大)
- 13:30 D40 鉛直アレー地震観測記録から統計的に求めたインコヒーレントな波動成分 °池浦友則(鹿島技術研)
- 13:45 D41 南関東地域の浅部地盤初期モデル °大井昌弘・遠山信彦・先名重樹・藤原広行(防災科研)
- 14:00 D42 強震動評価のための深部地盤構造モデルに関する基礎的検討(その1)
°藤原広行(防災科研)・松山尚典(応用地質)
- 14:15 D43 千葉県北部における強震記録のPS変換波を用いた地震基盤($V_s=2.5$ km/s)検出の試み
°八才 憲生・藤原広行(防災科技研)・成田 章(三菱スペースソフトウェア)
- 14:30 D44 地震動のS波部分を用いた地下構造モデルの推定
°鈴木晴彦(応用地質)・山中浩明(東工大総合理工)
- 14:45 D45 ハイブリッドヒューリスティック探索による表面波位相速度とレシーバー関数の同時逆解析
°山中浩明(東工大総合理工)
- 15:00 休憩
- 15:15 D46 仙台平野における3次元地下構造モデルの構築 °笠松健太郎・引田智樹・池浦友則(鹿島技術研)
- 15:30 D47 新潟平野における深部S波速度構造の推定
°津野靖士(LGIT)・工藤一嘉(東電設計/日大)・中村友紀子(新潟大工)・神野達夫(広島大院工)・
畑山 健・座間信作(消防研究センタ)・笹谷 努(北大院理)・古村孝志(東大地震研)・
田守伸一郎(信州大工)・坂上 実(東大地震研)
- 15:45 D48 極小微動アレイによる浅部地下構造探査法の提案 —CCA法による超分解能の利用—
°長 郁夫(産総研)・多田 卓・篠崎祐三(東理大工)
- 16:00 D49 Daylight Imaging法による横浜市内の先新第三系基盤構造の推定(序報)
°吉本和生(横浜市大)・中原 恒(東北大)・木下繁夫(横浜市大)
- 16:15 D50 阿寺断層をわたる地震波の特性 大久保慎人・鈴木貞臣・°藤井 巖(東濃地震科研)
- 16:30 D51 関東地域における広域深部観測井VSPによる深層地盤のQ値の推定(その2)
°山水史生(防災科研)
- 16:45 D52 新型「S波バイブレータ」の性能評価実験について
°川崎慎治・渡部 勉・須田茂幸・川中 卓・井川 猛(地科研)・額継一起・古村孝志(東大地震研)
- 17:00 D53 能登半島中部の重力異常 河野芳輝(元金沢大理)・本多 亮(北大理)・°浜田 昌明(北陸電力)

11月2日(木) 9:15~12:00 A会場

地震発生の物理 (A53-A63) (講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 加藤愛太郎・加瀬祐子・福山英一

- 9:15 A53 クラスタ的微小地震活動の特徴 —和歌山県有田郡クラスター—
°加藤愛太郎・飯高 隆・酒井慎一・平田 直・金沢敏彦(東大地震研)
- 9:30 A54 Quantifying early aftershock activity of the 2004 Mid Niigata Prefecture Earthquake (Mw 6.6)
°Bogdan ENESCU・Jim MORI・Masatoshi MIYAZAWA(京大防災研)

- 9:45 A55 2004年新潟県中越地震系列のスペクトル解析: Mo-fc の3乗則からのずれ
 °田島礼子・田島文子 (広島大院理)
- 10:00 A56 連動型地震におけるすべり量と断層長のスケーリング則: 傾斜角による違い
 °加瀬祐子 (産総研活断層)
- 10:15 A57 Possible Lateral Stress Interactions in a Sequence of Large Interplate Earthquakes in the Mexican Subduction Zone
 Miguel A. SANTOYO・°Takeshi MIKUMO・Carlos MENDOZA (UNAM Mexico)
- 10:30 A58 小繰り返し地震の発生の特徴とアスペリティ
 °内田直希・松澤 暢・岡田知己・長谷川昭 (東北大)・今西和俊 (産総研)・W.L. Ellsworth (USGS)
- 10:45 A59 GPS と小繰り返し地震の併合処理によるプレート間滑り分布の推定
 °五十嵐俊博・宮崎真一 (東大地震研)
- 11:00 A60 プレート運動による準静的応力蓄積と地震の動的破壊の連成シミュレーション
 °橋本千尋 (東大理/JST CREST)・福山英一 (防災科研/JST CREST)・松浦充宏 (東大理/JST CREST)
- 11:15 A61 地震の動的破壊と波動伝播の連成シミュレーション
 °福山英一・青井 真 (防災科研/JST CREST)・橋本千尋・松浦充宏 (東大理/JST CREST)
- 11:30 A62 3D FEM-beta as a numerical tool for studying seismic zones
 °M.L.L. WIJERATHNE・Hide SAKAGUCHI (JAMSTEC)・Kenji OGUNI・Muneo HORI (ERI)
- 11:45 A63 光弾性と離散要素法 (DEM) で探る砂山内部の応力鎖の構造
 °吉岡直人 (横浜市大)・阪口 秀 (海洋研究開発機構)

11月2日(木) 9:15~11:15 B会場

テクトニクス (B53-B60) (講演時間12分・質疑応答3分)

座長 瀬野徹三・田中明子

- 9:15 B53 プルーム活動の地表痕跡としてのホットスポットの分類について °江口孝雄 (防衛大地球海洋)
- 9:30 B54 沈み込むプレートから地殻が引きはがされる条件: 衝突の本質とは何か? °瀬野徹三 (東大地震研)
- 9:45 B55 地下構造探査結果や地震活動様式を統一的に説明するフィリピン海プレート像試論
 °笠原敬司・小原一成・松原 誠・木村尚紀・武田哲也 (防災科研)・佐藤比呂志 (東大地震研)
- 10:00 B56 北海道島弧会合部における島弧の走向に平行な圧縮応力場の起源について
 °佐藤魂夫・竹内 舞 (弘前大理工)
- 10:15 B57 CMT データインバージョン法による東北地方の3次元地震発生応力場の推定
 °寺川寿子・橋本千尋・中島研吾・松浦充宏 (東大理/JST CREST)
- 10:30 B58 なぜ地質学的歪み速度は測地学的歪み速度より一桁小さいのか? °高橋雅紀 (産総研地質)
- 10:45 B59 沈み込み帯における内部変形運動と熱構造発達の数値シミュレーション
 °鹿倉洋介・深畑幸俊・中島研吾・松浦充宏 (東大理地惑)
- 11:00 B60 古本(2005)の「本震と最大余震のマグニチュード差と地殻熱流量」についてのコメント
 °田中明子 (産総研企画本部)

11月2日(木) 11:15~12:00 B会場

歪集中のメカニズムと内陸地震の発生過程 (B61-B63) (講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 大見士朗・中島淳一

- 11:15 B61* 跡津川断層系の地表地質構造と活動性について °竹内 章 (富山大院理工)
- 11:30 B62 跡津川断層系と周辺の地震活動—歪集中帯自然地震合同観測による—
°大見士朗・和田博夫・伊藤 潔 (京大防災研)・加藤愛太郎 (東大地震研)・
歪集中帯大学合同地震観測グループ
- 11:45 B63 合同地震観測データを用いた跡津川断層周辺の三次元地震波速度構造 (その2)
°中島淳一 (東北大)・加藤愛太郎・岩崎貴哉 (東大地震研)・大見士朗 (京大防災研)・
岡田知己 (東北大)・武田哲也 (防災科研)・歪集中帯大学合同地震観測グループ

11月2日(木) 9:15~12:00 C会場

地殻構造 (C55-C65) (講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 額縁一起・本多 亮・松原 誠

- 9:15 C55 強震動予測のための地下構造の標準的なモデル化手法
°額縁一起・三宅弘恵・田中康久 (東大地震研)
- 9:30 C56 2004年留萌支庁南部地震震源域の比抵抗構造
°市原 寛・本多 亮・長谷英彰・神山裕幸・茂木 透・山谷祐介 (北大理)・小川康雄 (東工大火山流体)
- 9:45 C57 重力異常から推定される2004年留萌支庁南部地震震源域の地下構造
°本多 亮・神山裕幸・市原 寛・山口照寛・茂木 透 (北大理)
- 10:00 C58 臨時観測による2004年新潟県中越地震震源域南部の詳細な地殻構造
°干野 真・桑原保人・今西和俊・長 郁夫 (産総研)・武田哲也 (防災科技研)
- 10:15 C59 稠密地震観測データを用いた長野県西部地域の地震波速度構造
°野田俊太・飯尾能久 (京大防災研)・関口涉次・高井香里・堀内茂木 (防災科研)
- 10:30 C60 南アルプス地域・糸魚川—静岡構造線断層帯付近の地震活動と地殻構造
°ヤニス パナヨトプロス・平田 直・佐藤比呂志・加藤愛太郎 (東大地震研)・今西和俊・長 郁夫・
桑原保人 (産総研)
- 10:45 C61 布田川・日奈久断層周辺の反射面 °渡邊篤志・松本 聡 (九大地震火山)
- 11:00 C62 太平洋スラブ内の帯状の地震活動とそれに沿う低速度帯: 既存弱面の再活動?
°長谷川昭・中島淳一 (東北大院理)
- 11:15 C63 東北日本における太平洋スラブ内の三次元地震波速度構造
°辻 優介・中島淳一・岡田知己・松澤 暢・長谷川昭 (東北大院理)
- 11:30 C64 高温高压条件下における一目の捕獲岩の弾性波速度測定と東北日本弧下部地殻における地震学的・岩石学的不均質構造
°西本壮志 (横国大院環境情報/現 幌延地圏環境研)・石川正弘・有馬 眞 (横国大院環境情報)・
吉田武義・中島淳一 (東北大院理)
- 11:45 C65 三次元速度構造と相似地震の分布から推定した関東地域の下のフィリピン海・太平洋プレートの形状
°松原 誠・小原一成・笠原敬司 (防災科研)

11月2日(木) 9:15~12:00 D会場

地震活動(D54-D64) (講演時間12分・質疑応答3分)

座長 勝俣 啓・前田憲二・板場智史

- 9:15 D54 ISC データによる 1994 年北海道東方沖地震と 2000 年根室半島沖地震の本震・余震の震源再決定: 併走する 2 枚のスラブ内低角断層面 °原田智也(神戸大院自然)・石橋克彦(神戸大都市安全)
- 9:30 D55 2003 年十勝沖地震のアスペリティ付近の b 値の時間変化 °勝俣 啓(北大地震火山)
- 9:45 D56 大地震直前の微小クラスタ相似地震の抽出 °高波鐵夫・雨宮晋一郎(北大地震火山)
- 10:00 D57 2003 年宮城県沖地震の誘発地震活動による応力蓄積率の推定 °前田憲二(気象研)
- 10:15 D58 海底地震観測による 2005 年宮城県沖の地震 (M 7.2) の余震のメカニズム解
°鈴木健介・日野亮太・山本揚二郎・西野 実(東北大理)・金沢敏彦・山田知朗・中東和夫・望月公廣・篠原雅尚・桑野亜佐子(東大地震研)・植平賢司(九大理)・青木 元・田中昌之(気象庁)・荒木英一郎・小平秀一・藤江 剛・金田義行(海洋研究開発機構)
- 10:30 D59 臨時観測による 2004 年新潟県中越地震震源域南部の微小地震活動と断層構造
°今西和俊・桑原保人・長 郁夫・干野 真(産総研)・武田哲也(防災科研)
- 10:45 D60 松代群発地震を発生させた湧水の上昇プロセス °神定健二(気象庁精密地震観測室)
- 11:00 D61 紀伊半島南西部に見られる地殻下地震活動の偏曲部について
°中村正夫(大津市)・松波孝治・郷 隆之(京大防災研)
- 11:15 D62 地震活動のゆらぎとパターン抽出—本州中央部の地震活動 °野口伸一(防災科研)
- 11:30 D63 地震活動の変化からみた地震活動サイクルの全体像 その 2
°板場智史(産総研)・渡辺邦彦(京大防災研)
- 11:45 D64 内陸地震の最大規模と地温勾配の関係
°古本宗充(名大環境学研)・工藤 健(中部大地球ウォッチ)・田中俊行(東濃地科研)

11月2日(木) 14:15~16:15 A会場

地震発生の物理(A64-A71) (講演時間12分・質疑応答3分)

座長 岡元太郎・亀 伸樹

- 14:15 A64 火山地域の深部低周波地震のスペクトル構造 °鶴川元雄(防災科研)
- 14:30 A65 スラブ内で発生する稍深発地震の震源過程の特徴 °八木勇治(筑波大)
- 14:45 A66 2006 年 7 月 17 日西ジャワ地震の破壊伝播過程の推定 °モリジェームズ・朴 舜千(京大防災研)
- 15:00 A67 ジャワ海溝の微細地殻構造モデルと 2.5 次元差分法を用いた 2006 年 7 月 17 日ジャワ島沖地震の震源過程解析
°岡元太郎(東工大)・竹中博士(九大)
- 15:15 A68 Realtime-JISNET の観測データを用いた 2006 年 5 月 26 日ジャワ島中部地震の解析
°中野 優・熊谷博之・宮川幸治・山品匡史・井上 公・石田瑞穂・青井 真・森川信之(防災科研)・プリ ハルジャディ(インドネシア気象庁)
- 15:30 A69 DD トモグラフィー法による 2004 年新潟県中越地震の震源断層とアスペリティのイメージング (2)
°岡田知己・柳沼 直・本堂周作・内田直希・長谷川 昭(東北大理)・Haijiang ZHANG・Clifford THURBER (UW-Madison)
- 15:45 A70 短周期地震波の成因の理解のために—数値シミュレーションによる考察—
°宮武 隆・三宅弘恵(東大地震研)
- 16:00 A71 破壊面結合動力学モデルの地震波放射 —等価破壊パラメタ不均質による短周期地震波発生の考察—
°亀 伸樹・内田浩二(九大理)

11月2日(木) 14:15~16:30 B会場

歪集中のメカニズムと内陸地震の発生過程 (B64-B72) (講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 西上欽也・遠田晋次

- 14:15 B64 広帯域 MT 法による歪集中帯周辺における下部地殻のイメージング (その2)
°吉村令慧 (京大防災研)・歪集中帯地殻比抵抗研究グループ
- 14:30 B65 跡津川断層周辺域に局在する低 coda Q 領域
山内順公 (金沢大理)・°平松良浩 (金沢大自然)・西上欽也 (京大防災研)・蔵下英司 (東大地震研)・
歪集中帯大学合同地震観測グループ
- 14:45 B66 跡津川断層系の深部不均質構造—土で観測されるトラップ波および断層系の地震波散乱特性—
°西上欽也 (京大防災研)・田所敬一 (名大環境)・徳田 豊 (原子力安全基盤機構)・
水野高志 (シュルンベルジェ)・平松良浩 (金沢大)・蔵下英司 (東大地震研)・
歪集中帯大学合同地震観測グループ
- 15:00 B67 人工地震探査によって求められた跡津川断層の微細構造
°飯高 隆・加藤愛太郎・蔵下英司・岩崎貴哉・平田 直 (東大地震研)・片尾 浩・
廣瀬一聖 (京大防災研)・宮町宏樹 (鹿児島大)
- 15:15 B68 活断層を挟んだ歪の連続観測により得られた特徴的な変動について —茂住断層の場合—
°石井 紘 (東濃地震科研)・山内常生 (名大環境)・浅井康広 (東濃地震科研)・
松本滋夫 (東大地震研)・向井厚志 (奈良産業大)
- 15:30 B69 歪集中帯及び近傍での歪速度変化と地震活動 °大谷文夫 (京大防災研)
- 15:45 B70 歪集中帯北部の非効率な応力解放様式 —歪集中帯の成因モデル— °遠田晋次 (産総研活断層)
- 16:00 B71 非線形粘弾性を考慮した内陸における歪み集中帯形成過程のモデル化—東北日本の場合—
°芝崎文一郎 (建築研)・飯尾能久 (京大防災研)・岩崎貴哉 (東大地震研)・田中明子 (産総研)・
柄谷和輝 (CRC)
- 16:15 B72 地震活動の相対的な静穏化活発化と GPS 時系列による前駆的な非地震性すべりの検知
°尾形良彦 (統数研)

11月2日(木) 14:15~16:30 C会場

地殻構造 (C66-C74) (講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 佐藤比呂志・伊藤 潔

- 14:15 C66 大都市圏地殻構造調査の成果について
°佐藤比呂志・平田 直 (東大地震研)・伊藤 潔 (京大防災研)・阿部 進 (地科研)・岩崎貴哉・
顔織一起・加藤直子・萩原弘子 (東大地震研)・伊藤谷生 (千葉大)・笠原敬司 (防災科技研)・
川中 卓・井川 猛 (地科研)・松原 誠・木村尚紀 (防災科技研)・
Okaya DAVID (南カリフォルニア大)
- 14:30 C67 大大特 2002 房総縦断測線によって解明された房総半島上部地殻構造
°伊藤谷生 (千葉大自然)・佐藤比呂志 (東大地震研)・津村紀子 (千葉大理)・浅尾一己 (千葉県)・
亀尾浩司・小竹信宏・伊藤 慎 (千葉大理)・駒田希充・菊池伸輔・山本修治 (千葉大院)・
新藤亮太 (関東天然瓦斯)・須田茂幸・斎藤秀雄・川中 卓 (地科研)
- 14:45 C68 関東山地東縁部における地殻構造 —大都市圏地殻構造調査関東山地東縁 2003 測線の屈折法解析—
°新井隆太・岩崎貴哉・佐藤比呂志 (東大地震研)・阿部 進 (地科研)・平田 直 (東大地震研)

- 15:00 C69 大都市圏地殻構造調査・小田原―山梨測線 2005 の地殻構造
 °加藤直子・佐藤比呂志(東大地震研)・阿部 進(地科研)・岩崎貴哉・平田 直・木村治夫(東大地震研)・伊藤谷生(千葉大)・笠原敬司(防災科技研)・今泉俊文(東北大)・斉藤秀雄・川中 卓・井川 猛(地科研)
- 15:15 C70 大大特小田原―山梨測線で確認された非地震性 PHS スラブ反射面の甲府盆地下における東西追跡
 °菊池伸輔(千葉大自然)・佐藤比呂志・平田 直・岩崎貴哉(東大地震研)・池田安隆(東大理)・伊藤谷生(千葉大自然)・津村紀子(千葉大理)・川中 卓・阿部 進(地科研)・小澤岳史(石油資源)・東中基倫(地科研)
- 15:30 C71 大都市圏地殻構造調査・北関東測線 2005 の成果
 °木村治夫・佐藤比呂志・(東大地震研)・須田茂幸・川崎慎治・阿部 進(地科研)・加藤直子・平田 直(東大地震研)・伊藤谷生(千葉大)・笠原敬司(防災科技研)・川中 卓(地科研)
- 15:45 C72 大大特 I : 人工地震探査による近畿地方の P 波速度構造の推定 °廣瀬一聖・伊藤潔(京大防災研)
- 16:00 C73 有馬高槻構造線付近の地下構造地震探査
 °伊藤 潔・梅田康弘・片尾 浩・廣瀬一聖(京大防災研)・佐藤比呂志・平田 直(東大地震研)・阿部 進・川中 卓・井川 猛(地科研)
- 16:15 C74 紀伊半島～近畿北部地域におけるレシーバ関数イメージ
 °澁谷拓郎・伊藤 潔・大見士朗・西村和浩・中尾節郎・山崎友也・平野憲雄・加茂正人(京大防災研)・小河和雄・平原和朗(京大理)

11月2日(木) 14:15~16:15 D会場

地震予知(D65-D72) (講演時間12分・質疑応答3分)

座長 石川有三・筒井 稔

- 14:15 D65 関連のある複数の異常現象に基づく地震確率(3) °井元政二郎(防災科技研)
- 14:30 D66 ジャワ南方沖地震と地震予知 °石川有三(気象庁精密地震観測室)
- 14:45 D67 高知県黒潮町佐賀における海水・淡水境界面の観測(続)
 °浅田照行・梅田康弘・辰己賢一・重富國宏(京大防災研)・木村昌三・川谷和夫(高知大理地震観)・大村 誠(高知女子大)
- 15:00 D68 深部地下水上昇と地殻変動 ―地下水温上昇(2002年～)と近畿地方の地殻活動異常―
 °佃 為成(東大地震研)
- 15:15 D69 最近の VHF 散乱波による直前予知事例と散乱波の方位測定
 °森谷武男(北大理地震火山)・山本 勲(岡山理大工)・茂木 透・高田真秀(北大理地震火山)
- 15:30 D70 大分地震直前に東南海・南海で励起された地中電磁波パルス群の検出
 °筒井 稔・山田誉人(京産大工)
- 15:45 D71 前兆電界の観測による地震の直前予知
 °高橋耕三(元通信総合研)・イーゴル マトヴェフ(地球物理研)・矢崎 忍(防災科研)・藤縄幸雄(REIC)
- 16:00 D72 [地震注意報] の地震予知・地震予報実験の結果から見た地震予知の可能性と実用性
 °深澤陽輔(地震注意報 EarthquakeAlert)

10月31日(火) 18:15~19:45 ポスター会場

ポスターセッション (P001-P080)

次の南海トラフ巨大地震に向けて

- P001 3次元地震動シミュレーションを利用した津波波源モデルの高精度化
°齊藤竜彦・古村孝志 (東大地震研/JST CREST)
- P002 Preparedness for the next Great Nankai Trough Earthquake: estimate asperities distribution using realtime data.
°Changjiang WU・Shigeki HORIUCHI (NIED)
- P003 紀伊半島沖南海トラフにおける不整形地殻構造の沈み込みに関連した地震活動
°尾鼻浩一郎・小平秀一・伊藤亜妃・神谷眞一郎・金田義行 (海洋研究開発機構)
- P004 南海トラフ沿いの地震で隆起した紀伊半島南部沿岸における生物遺骸群集の高度と年代
°穴倉正展 (産総研活断層)・越後智雄 (地盤研究財団)
- P005 大分県の湖沼堆積物に記録された「巨大南海地震」の津波シミュレーションによる考察
°原田智也 (神戸大院自然)・石橋克彦 (神戸大都市安全)
- P006 OBS 波形記録から推定した四国沖西部南海トラフにおける散乱及び内部減衰
°高橋 努・尾鼻浩一郎 (海洋研究開発機構)
- P007 繰り返し長期海底地震観測による紀伊半島沖南海トラフの地震波速度構造
°中東和夫・桑野亜佐子・山田知朗・望月公廣・篠原雅尚・酒井慎一・金沢敏彦 (東大地震研)・植平賢司・清水 洋 (九大島原)
- P008 長期海底地震観測による東南海・南海地震想定震源域の地震活動
°山田知朗・中東和夫・酒井慎一・望月公廣・篠原雅尚・金沢敏彦・桑野亜佐子 (東大地震研)・植平賢司・清水 洋 (九大理)
- P009 Accurate hypocenter determination of relatively large earthquakes offshore of the Kii peninsula
°Ling BAI (DPRI)・Eric A. BERGMAN・E. Robert ENGDahl (Univ. Colorado)・Ichiro Kawasaki (DPRI)
- P010 TCDP Hole B コア内に発達した Chelungpu 断層の断層岩試料を用いた 3 軸摩擦実験: 1136 mFZ の測定結果
°溝口一生 (防災科研)・高橋美紀・増田幸治 (産総研)・谷川 亘・林 為人・徐 垣 (海洋研究開発機構)・曾根大貴・嶋本利彦 (京大理)・Sheng-Rong SONG (国立台湾大)
- P011 1997-98 年における低周波微動の活動 (2)
°田ノ上芽衣子・中田令子・須田直樹 (広大院理)・鶴岡 弘 (東大地震研)
- P012 中部日本で発生する深部低周波微動に対応した歪変化・傾斜変動の検出—地殻変動連続観測データ解析—
°飯屋新一 (名大院環境)
- P013 深部低周波微動活動の周波数と性質
°中村 祥・武尾 実 (東大地震研)・小原一成 (防災科研)
- P014 愛知県における深部低周波微動のアレイ観測
°中道治久・渡辺俊樹 (名大)・中村 祥 (東大地震研)・相馬知征・柏木雅生・山脇輝夫・太田雄策・山田 守・山田功夫・鷲谷 威・山崎文人・田所敬一・伊藤武男・飯屋新一・村瀬雅之・利根川貴志・大園真子・大石 陽・山室友生・石川溪太・大石真紀子・安田 仁・猪飼憲一・岡本和之・小澤和浩・武藤大介・デニス チャカ (名大)
- P015 犬山超伝導重力計が捉えたコサイスマックな重力変化について
°名和一成 (産総研)・須田直樹 (広大)・山田功夫・宮島力雄 (名大)
- P016 付加体の形成と地震発生帯上限付近での変形過程
°堀 高峰・阪口 秀 (海洋研究開発機構)
- P017 津波波形インバージョンによって推定された 1968 年日向灘地震のすべり量分布
°馬場俊孝・堀 高峰・光井能麻 (海洋研究開発機構)
- 地殻変動・GPS・重力
- P018 測地データによる 1973 年根室半島沖地震 (M 7.4) のすべり分布
°西村卓也 (国土地理院)

- P019 2003 年以降に見られる岩手付近のプレート間カップリングの変化
 °小沢慎三郎・水藤 尚・今給黎哲郎 (国土地理院)
- P020 不均質粘弾性媒質中の迂り応答を用いた三陸沖のプレート間カップリングの時空間変化の推定
 °兵藤 守・堀 高峰 (海洋研究開発機構)・平原和朗 (京大理)
- P021 東海スローリップの新たな展開の可能性
 °水藤 尚・小沢慎三郎 (国土地理院)
- P022 GPS データの主成分分析による 2000 年三宅・神津岩脈貫入活動に伴う地殻変動と東海異常地殻変動の発生時期に関する考察
 °河村 将 (中部大地球ウォッチ)・山岡耕春 (東大地震研)
- P023 東濃地震科学研究所 1020 m 深ボアホールで観測された深部低周波微動活動に関連した異常地殻歪変化の特徴について
 °浅井康広・鈴木貞臣・石井 紘・大久保慎人・田中俊行・青木治三 (東濃地震科研)
- P024 定常的な地殻変動観測に基づく透水性構造の推定
 °向井厚志 (奈良産大)・藤森邦夫 (京大院理)
- P025 GPS 観測データから見た立山における最近の地殻変動
 °道家涼介・竹内 章 (富山大)・安江健一 (原子力機構)・畠本和也・松浦友紀 (富山大)
- P026 御嶽山群発地震域における絶対重力測定 (3)
 °田中俊行・青木治三 (東濃地震科研)・木股文昭・宮島力雄 (名大院環境)
- P027 アラスカ州南東部における氷河後退に伴う高速地殻隆起の総合測地観測—絶対重力測定—
 孫 文科 (東大地震研)・°三浦 哲 (東北大)・佐藤忠弘 (国立天文台)・藤本博己 (東北大)
- P028 海底地殻変動観測における複数エポック一括局位置解析の試み
 °松本良浩・藤田雅之・石川直史 (海洋情報部)
- P029 宮城県沖における海底地殻変動観測の最近の成果
 松本良浩・°石川直史・河合晃司・藤田雅之・矢吹哲一朗・望月将志・浅田 昭
- P030 スマトラ地震の余効変動のその後
 °橋本 学 (京大防災研)・橋爪道郎 (チュラロンコン大理)・竹本修三・藤森邦夫 (京大理)・里村幹夫 (静岡大理)・
 伍 培明 (JAMSTEC)・加藤照之 (東大地震研)・齊藤 亨・丸山 隆 (NICT)・大塚雄一 (名大 STE 研)
- P031 北部スマトラ域における 2004 年スマトラ・アングマン地震後の余効変動のモデル化 —余効滑りの発生場所と滑り方向の考察—
 °太田雄策・Meilano IRWAN・伊藤武男・木股文昭 (名大院環境)・田部井隆雄 (高知大理)・
 Didik SUGIYANTO (シアクラ大)・加藤照之 (東大地震研)
- P032 HR-PPP 解析手法による GPS データを用いた地震の解析
 °佐藤一敏 (京大防災研)・高須知二・橋本 学 (京大防災研)・平原和朗 (京大院理)
- P033 スマトラ地震に伴うジオイド変形と極移動
 °日置幸介・小川涼子 (北大院理)
- P034 台湾 Longitudinal Valley におけるクリーブ変動 —干渉 SAR 解析による検出—
 °矢来博司 (国土地理院)・橋本 学 (京大防災研)・飛田幹男 (国土地理院)
- 地震に伴う諸現象
- P035 湿潤状態のガラスビーズの示す誘電分散—含水岩石の低周波誘電分散の基礎研究として
 °松本裕史 (富山大理工)
- 活断層と古地震
- P036 新庄盆地北部の断層および地下構造—反射法データの再解析結果—
 °横倉隆伸 (産総研地質情報)
- P037 臨時余震観測データによる気象庁一元化震源の補正 —2004 年新潟県中越地震と地質構造—
 °青柳恭平・阿部信太郎 (電中研)・小田義也 (首都大)
- P038 三浦半島南部、小網代湾における津波堆積物の特徴と浅海堆積物の粒径変化
 °金 幸隆・島崎邦彦 (東大地震研)・松岡裕美・岡村 眞 (高知大理)
- P039 曾根丘陵断層帯 (山梨県) の古地震調査
 °丸山 正 (産総研活断層)
- P040 阿寺断層近辺で観測された地震波のフーリエ解析
 °近藤陽介 (岐阜大教育)・大久保慎人・鈴木貞臣・藤井 巖 (東濃地震科研)
- P041 小田原市周辺の主な地震の発生日及び発生場所と月の位置との相関—その 2. 月位置詳細—
 °末 芳樹
- P042 兵庫県南部地震以降に発生した地震の起震断層と重力異常に関する予察的検討
 °井上直人 (京大理)・北田奈緒子 (地盤研究財団)・竹村恵二 (京大地熱)

- P043 起震断層の推定に関する検討（その2）—地表活断層と起震断層の関係について—
 °北田奈緒子（地盤研究財団）・井上直人（京大理）・竹村恵二（京大理）・岡田篤正（立命館大防災）
- P044 横ずれ断層の変位に伴う岩盤の変形 —模擬岩盤を用いたアナログ実験による基礎的検討—
 °上田圭一（電力中央研）
- 津波
- P045 ジャワ島南方沖地震の現地津波調査とGPS キャンペーン観測
 加藤照之（東大地震研）・伊藤武男（名大地震火山）・越村俊一（東北大災害制御）
- P046 南海巨大地震による東シナ海の津波のシミュレーション（続報）：済州島を中心として
 °石橋克彦（神戸大都市安全）・原田智也（神戸大院自然）
- P047 山陰地方の主な湾における静振の観測
 °阿部邦昭（日本歯大新潟短大）
- 地震の理論・解析法
- P048 Dynamic strain observation derives the rupture process of the 2004 Sumatra earthquake
 °Makoto OKUBO・Yasuhiro ASAI・Hiroshi ISHII・Harumi AOKI（TRIES ADEP）
- P049 準球座標系差分法（5）
 °豊国源知・竹中博士（九大理地惑）・王彦賓（北京大地物）
- 地球惑星深部構造と物性
- P050 レシーバー関数から求めたマントル不連続面のグローバルマップ
 °井上智史・趙大鵬・山田朗（愛媛大深部ダイナミクス）
- P051 散乱波解析による日本列島下の上部マントル構造推定
 °利根川貴志（名大環）・平原和朗（京大理）・澁谷拓郎（京大防災研）・汐見勝彦（防災科研）
- P052 日本列島のマイグレーション解析
 °川勝均・綿田辰吾（東大地震研）
- P053 南極地域の上部マントル3次元S波速度構造
 °小林励司（鹿児島大理）
- P054 宗谷海岸の広帯域地震データを用いた東南極の下の上部マントル異方性
 °白井佑介（融合センター）・金尾政紀（極地研）
- P055 Upper mantle structure beneath the north western Pacific region from surface wave tomography
 °リトビーナ イカテリーナ・吉澤和範・蓬田清（北大理）
- P056 日本列島周辺域の表面波方位異方性分布
 °吉澤和範・Ekaterina LITVINA（北大理）
- P057 北海道・東北・関東北部下における太平洋スラブ内地震の震源分布の特徴と脱水不安定説
 °北佐枝子・岡田知己・中島淳一・松澤暢・長谷川昭（東北大院理）・Stephen H. KIRBY（米国地質調査所）
- P058 地震波トモグラフィーによる月の内部構造
 °沼川広太・趙大鵬（愛媛大GRC）・雷建設（中国地震局地殻応力研）
- 強震動・地震災害
- P059 IT 強震計でみた震度1の建物の揺れ
 °鷹野澄（東大地震研）・伊藤貴盛（応用地震計測）
- P060 表層地盤がP波初動の振幅増加率に与える影響
 °中村洋光・山本俊六・堀内茂木・功刀卓・青井真・藤原広行（防災科研）・芦谷公稔（鉄道総研）
- P061 Qs at and around Ohchigata Fault Zone, Ishikawa Pref., Japan Estimated by Using the Double Spectral Ratio Method
 Himangshu Sekhar MANDAL（インド気象庁）・横井俊明（建築研国際地震工）
- P062 2003年十勝沖地震による広尾町内の強震記録
 °前田宜浩・野口科子・笹谷努（北大理）・三輪田吾郎・高井伸雄（北大工）
- P063 スラブ内地震による強震動の予測手法の検証
 °野口科子・前田宜浩（北大理）・森川信之（防災科研）・笹谷努（北大理）
- P064 レシーバ関数インバージョン法を用いた地盤構造のモデル化 —2003年宮城県北部地震の強震観測点—
 °ペトゥヒン アナトリ・宮腰研（地盤研究財団）
- P065 地殻内地震のやや短周期まで精度のある震源モデルの推定 —2003年宮城県北部地震—
 °宮腰研・PETUKHIN Anatoly・香川敬生（地盤研究財団）
- P066 経験的グリーン関数法に基づく2005年宮城県沖の地震の震源モデルの推定
 °佐藤智美（清水建設）

- P067 新潟県中越地震の震源インバージョンによる地震動特性の考察
 °石井やよい(京大工)・後藤浩之・澤田純男(京大防災研)
- P068 焼きなまし法を用いた震源インバージョン解析における解探索手法の改良
 °芝 良昭(電力中央研)
- P069 17世紀のM7クラスの芸予地震の震源域と規模の推定
 °高橋利昌・浅野彰洋・大内泰志・川崎真治(四国電力)・神田克久・武村雅之(鹿島小堀研)
- P070 アスペリティを考慮した stochastic finite-fault modeling による 2005 年福岡県西方沖地震の強震動の再現
 °大島光貴・Moustafa SAYED・竹中博士・川瀬 博
- P071 経験的強震動評価への断層破壊効果導入の試み
 °香川敬生(地盤研究財団)
- P072 半無限平行成層グリーン関数による震源近傍の広帯域強震動計算
 °久田嘉章(工学院大)
- P073 2003 年十勝沖地震における北海道内における速度応答の分布と地下構造
 °高井伸雄・三輪田吾郎(北大理)・野口科子・前田宜浩・笹谷 努(北大理)・田村 慎(道立地質研)
- P074 青森県内の K-NET, KiK-net 地点におけるサイト増幅特性の評価
 °湯沢 豊(東電工業)・中村亮一(東電設計)・工藤一嘉(東電設計/日大)・植竹富一(東京電力)
- P075 2005 年 8 月 16 日宮城県沖の地震の震源スペクトル 特性及び宮城県周辺の減衰・サイト特性
 °儘田 豊・小林源裕・田中英朗(原子力安全基盤機構)
- P076 横浜市高密度強震計ネットワークによる揺れの多様性と基盤構造の影響
 °安達 聡・田島文子・林田拓己(広島大院理)
- P077 2006 年 6 月 12 日に大分県中部で発生した稍深発地震 (Mw 6.4, 深さ 146 km) に見られる異常震域の特徴
 °林田拓己・田島文子(広島大院理)
- P078 2003 年十勝沖地震時の石狩・勇払平野の地震動シミュレーション
 °吉田邦一・堀川晴央・関口春子・吉見雅行(産総研活断層)
- P079 想定東南海・南海地震の広帯域強震動予測
 °川辺秀憲・釜江克宏(京大原子炉)
- P080 1906 年サンフランシスコ地震の長周期地震動シミュレーション
 °池上泰史(東大地震研/(株)CRC ソリューションズ)・木村武志・額綱一起(東大地震研)

11月1日(水) 17:30~19:00 ポスター会場

ポスターセッション (P081-P154)

岩石実験・地殻応力

- P081 変形中における粘土鉱物の脱水反応が断層強度に与える影響
 °高橋美紀(AIST)・溝口一生(NIED)・増田幸治(AIST)

地球化学・地下水

- P082 休止温泉ボーリング井を用いた高サンプリング地下水位観測
 °高橋浩晃(北大理)・柴田智郎・秋田藤夫・高橋徹哉・鈴木隆広・岡崎紀俊(道地質研)・山口照寛・池田隆司・笠原 稔(北大理)
- P083 2006 年 6 月 12 日大分県中部の地震 (M=6.9) に伴う地下水変化
 °板場智史・小泉尚嗣・大谷 竜・松本則夫(産総研)

地震発生の物理

- P084 南アフリカ Mponeng 金鉱山地下約 3 km, 約 2.5 年間の歪モニタリング
 °安武剛太・小笠原宏・川方裕則・森下 健・直井 誠・山本覚仁(立命大)・飯尾能久(京大)・中谷正生・加藤愛太郎(東大)・石井 紘(東濃地震研)・中尾 茂(鹿大)・山内常生(名大)・A.K.WARD(Seismogen CC.)・G.VAN ASWEGEN・A.J.MENDECKIP・LENEGAN(ISSI)・R.MCGILLR.CARTENS(Mponeng Mine)・南アフリカ半制御地震発生実験国際共同グループ

- P085 M2 級鉾山地震群の中で観測された小さな Slow strain step (2)
 °直井 誠・小笠原宏・川方裕則・竹内淳一・山本覚仁・下田直之・森下 健 (立命大)・石井 紘 (東濃地震研)・
 中尾 茂 (鹿大)・飯尾能久 (京大)・G. VAN ASWEGEN・A.J. MENDECKI・P. LENEGAN (ISSI)・
 R. EBRAHIM-TROLLOPE (Geohydroseis CC)・南アフリカ半制御地震発生実験国際共同グループ
- P086 潮汐応答で見る地震震源域での応力・物性変化検出の試み —南アフリカ, Mponeng 金鉱山—
 °森下 健・小笠原宏・川方裕則 (立命大)・中尾 茂 (鹿大)・中谷正生・加藤愛太郎 (東大)・飯尾能久 (京大)・
 石井 紘 (東濃地震研)・山内常生 (名大)・A.K. WARD (Seismogen CC)・A.J. MENDECKI・
 G. VAN ASWEGEN・P. LENEGAN (ISSI)・Rob MCGILL・R. CARTENS (Mponeng mine)・
 南アフリカ半制御地震発生実験国際共同グループ
- P087 南アフリカ Bambanani 金鉱山における複数の地震群に対する b 値の時間変化
 °糺谷 剛・小笠原宏・川方裕則・下田直之・森下 健・直井 誠・山本覚仁 (立命大)・飯尾能久 (京大)・
 A.J. MENDECKI・G. VAN ASWEGEN (ISSI)・R. EBRAHIM-TROLLOPE (Geohydroseis CC)・
 南アフリカ半制御地震発生実験国際共同グループ
- P088 南アフリカ Bambanani 金鉱山 M2 級震源極近傍での相似地震活動
 °山本覚仁・小笠原宏・川方裕則・下田直之・直井誠 (立命大)・飯尾能久 (京大)・A.J. MENDECKI・
 G. VAN ASWEGEN (ISSI)・R. EBRAHIM-TROLLOPE (Geohydroseis CC)・
 南アフリカ金鉱山における半制御地震発生実験国際共同グループ
- P089 模擬断層ガウジ剪断抵抗の振動による低下
 °堀 高峰・阪口 秀 (海洋研究開発機構)・吉岡直人 (横浜市大)・金田義行 (海洋研究開発機構)
- P090 滑り弱化型断層摩擦構成則の空間的な滑り変位及び滑り速度勾配依存性に関する考察
 °後藤浩之 (京大防災研)・阪口 秀 (JAMSTEC)・澤田純男 (京大防災研)
- P091 物性境界にあるアスペリティー —内陸地震におけるいくつかの例— °矢部康男 (東北大理)
- P092 間隙水圧の変動を考慮した地震発生サイクルシミュレーション —沈み込み帯の 2 次元モデリング—
 °三井雄太・平原和朗 (京大院理)
- P093 アスペリティー間の相互作用における摩擦特性の影響
 °有吉慶介・松澤 暢・日野亮太・長谷川昭 (東北大理予知セ)
- P094 2005 年宮城県沖地震 (M 7.2) と 1978 年宮城県沖地震 (M 7.4) のアスペリティーの比較研究 (2)
 °柳沼 直・岡田知己・長谷川昭 (東北大)・加藤研一・武村雅之 (鹿島小堀研)・八木勇治 (筑波大)
- P095 東海地域のスロースリップイベントの再現 °弘瀬冬樹・高山博之・前田憲二・伊藤秀美 (気象研)
- P096 スロースリップに相当する応力解放が発生した場合の東海地震の発生時期の変化
 °甲斐玲子 (気象庁)・前田憲二・高山博之・弘瀬冬樹 (気象研)
- P097 2004 年紀伊半島南東沖地震は東海スロースリップを停止させたか? °山室友生・鷲谷 威 (名大環境)
- P098 2000 年鳥取県西部地震震源断層付近の地震前・地震後におけるひずみ速度テンソルの変化について (2)
 °豊田暁来 (京大防災研)・川方裕則 (立命館理工)・小林知勝・橋本 学 (京大防災研)
- P099 2000 年鳥取県西部地震域における応力場の推定
 °川西里枝・飯尾能久・片尾 浩・澁谷拓郎 (京大防災研)・行竹洋平 (神奈川地研)
- P100 2005 年福岡県西方沖地震の連鎖的破壊成長過程 °内出崇彦・井出 哲 (東大院理地惑)
- P101 2005 年福岡県西方沖地震の初期段階に見られた破壊の特徴 (2) —破壊初期の時間発展
 °山口慎司 (京大防災研)・川方裕則 (立命館理工)・梅田康弘 (京大防災研)
- P102 表面波解析から推定される 2006 年 7 月 Java 地震 (Mw 7.8) の破壊継続時間
 °堀川晴央 (産総研活断層)・中西一郎 (京大院理)
- P103 カムチャツカ半島北東部で発生した大規模内陸地震 (2006 年 4 月 20 日): 海半球ネットワーク観測点が捉えた同時双子型破壊過程
 °石原 靖 (IFREE JAMSTEC)・山田功夫 (名大環境)・幸 良樹 (IFREE JAMSTEC)
- P104 Tomographic evidence for the Eurasian lithosphere subducting beneath South Taiwan
 °王 志・趙 大鵬 (愛媛大学 GRC)

- P105 日本下に沈み込む太平洋スラブで起きた稍；深発地震 ($M_j \geq 4.0$) から推定した地震波放射効率
 °西辻陽平・James MORI (京大防災研)
- P106 Determination of Rupture Velocity of Deep-Focus Earthquakes using Regional Array Data
 °Sun-Cheon PARK・Jim MORI (京大防災研)
- P107 Staggered-Grid-Split-Node 法および経験的グリーンテンソル法に基づく短周期帯域の動力学的破壊過程
 °Nelson PULIDO (防災科技研)・Luis DALGUER (サンディエゴ市立大地質)
- P108 3次元時間域動弾性クラック問題に対する高速多重極法の適用
 °高橋 徹・三宅弘恵・瀧澤一起 (東大地震研)
- P109 Dynamic Rupture Propagation in Thin Fluid Films
 °Koji UENISHI (Kobe Univ.)・Kazuhiro TSUJI (Kobe Univ.)・Wojciech DEBSKI (Polish Academy of Sciences)
 地震計測・処理システム
- P110 インドネシアにおけるリアルタイム広帯域地震観測網 (Realtime-JISNET) の構築
 °宮川幸治・山品匡史・井上 公・根岸弘明 (防災科研)・石田瑞穂 (JAMSTEC)・Masturyono・
 Prih Harjadi (BMG)・熊谷博之・中野 優 (防災科研)
- P111 Realtime-JISNET データ処理システムの構築
 °山品匡史・宮川幸治・根岸弘明・井上 公 (防災科研)・石田瑞穂 (JAMSTEC)・Fauzi・
 Prih Harjadi (BMG)・熊谷博之・中野 優 (防災科研)
- P112 トウングラワおよびコトバキシ火山 (エクアドル) における広帯域地震・空振観測網の構築
 °熊谷博之 (防災科研)・ウゴ イェベス・マイラ バカ・ヴィニシオ カセレス (IG-EPN)・永井卓郎 (コムフォース)・
 横江健一 (アストロ)・今井健晴 (アイコム)・宮川幸治・山品匡史 (防災科研)・サンティアゴ アライス・
 フレディ ヴァスコネス・エディー ピナホタ・クリスチャン シスネロス・クリスティーナ ラモス・
 ミリアム パレデス・ロレナ ゴメスフラド・アレックス ガルシア・インディラ モリナ・パトリシオ ラモン・
 ウイルソン エンリケス (IG-EPN)・井上育利 (コムフォース)・石川剛生・藤原真吾 (JICA)・中野 優・
 井上 公 (防災科研)
- P113 淡路島弾性波アクロス送信装置の送信特性と時間変化
 °生田領野・山岡耕春 (東大地震研)・須藤法子 (名大院環境)
- P114 準リアルタイムモーメントテンソル解析による超低周波地震モニタリング
 °伊藤喜宏・浅野陽一・小原一成・松本拓己 (防災科研)
- P115 HDLC インターフェースの観測機器をブロードバンド回線に接続するための IP 変換装置
 °卜部 卓 (東大地震研)
- P116 地震波の到着順を用いた簡易な震央決定法
 °関口渉次 (防災科研)
- P117 一元化観測網のノイズレベルと検知能力 (その2)
 °森脇 健・高濱 聡・明田川保 (気象庁)
- P118 松代伸縮計の応答特性 —2. 位相応答および方位依存性—
 °岡本大志 (京大理)・小久保一哉 (気象庁)・露木貴裕 (気象庁精密地震観測室)
- P119 IT 強震計用に開発した Web 利用の動的表示技術
 °伊藤貴盛 (応用地震計測)・鷹野 澄 (東大地震研)・林 能成 (名大環境)
- P120 WIN システム用リアルタイムモニターツールの開発
 °鶴岡 弘 (東大地震研)
- P121 対話型検測システム win の機能強化
 °中川茂樹 (東大地震研)・針生義勝 (防災科研)・植平賢司 (九大島原)・卜部 卓・鶴岡 弘・
 酒井慎一 (東大地震研)
- P122 トルコ共和国強震観測網実験システムのフォローアップ
 °鈴木貞臣 (東濃地震研)・香川敬生 (地盤研)・Murat BEYHAN・Engin CORUH・Bekir TUZEL (トルコ地震研)・
 阪本真由美 (元 JICA)・太田 裕 (東濃地震研)
- 地震一般
- P123 Hi-net アレイでの長周期地震波の震源位置推定
 °松林弘智・松本拓巳 (防災科研)
- P124 震源時とセントロイド時の差についての考察—その2—
 °堀 貞喜 (防災科研)

- P125 福井県奥越付近における最近の地震活動と関連する諸現象の特徴
 °岡本拓夫(福井高専)・平野憲雄・和田博夫・竹内文朗・西上欽也・渡辺邦彦(京大防災研)
- P126 7月17日インドネシア、ジャワ地震のMwp
 °坪井誠司(IFREE)・Barry HIRSHORN(PTWC)・石原 靖・水谷宏光・幸 良樹(IFREE)
- P127 国内及び南極での広域アレ観測を目的としたインフラサウンド計測システムの開発と現状
 °石原吉明(東北大理)・山本真行(高知工科大)・金尾政紀(極地研)
- P128 南極大陸沿岸の地震計記録を用いた未知のイベント探索
 °名和一成(産総研)・須田直樹(広大)・金尾政紀(極地研)
- P129 常時地球自由振動の年周変動と半年周期変動
 °久須見健弘・須田直樹(広島大院理)
- P130 西太平洋域における海底孔内広帯域地震観測所からのデータ回収と雑微動長期変動
 °篠原雅尚(東大地震研)・荒木英一郎(海洋研究開発機構)・金沢敏彦(東大地震研)・末広 潔(海洋研究開発機構)・山田知朗・望月公廣・中東和夫・深野哲生・大久保忠博(東大地震研)
- P131 阿蘇火山で発生する長周期微動について
 °大倉敬宏(京大理阿蘇)・池田さや香(岐阜地方気象台)・山本 希(東北大理)・金嶋 聰(九大理)・高木憲朗(東工大理)・川勝 均(東大地震研)
- P132 IISEE CMT カタログの構築
 °西村直樹(筑波大院生命環境)・原 辰彦(建築研国際地震工学)
 学校教育と知識普及
- P133 地震防災を題材にした番組制作
 °数越達也(須磨友が丘高)・溝上晶子(早稲田大教)
- P134 平成18年度 教員サマースクール(学校教育委員会主催)の実施報告
 °荒井賢一(栄東高)
- P135 高校生のための地震教材—Hi-net データを用いた震源決定とメカニズムの推定—
 °伊東明彦(宇都宮大教育)
 地盤構造・地盤震動
- P136 地震時における盛土住宅地盤の変形—破壊過程—和歌山市での地震動・間隙水圧観測から—
 °郷 隆之・松波孝治(京大防災研)・中村正夫(大津市)
- P137 関東学院大学金沢八景キャンパスにおける地震動の特性
 °前田直樹(関東学院大工)・中島康雅(関東学院大工総研)・松田馨余(関東学院大経済)・精木紀男(関東学院大工)
- P138 高周波地震動の空間変動(敷地サイズの話)
 °横井俊明(建築研国際地震工学)
- P139 understanding of $Q_p/Q_s < 1$ in sedimentary basins by separating scattering and intrinsic attenuation
 °ジャファー・ガンドミ アラシュ・竹中博士(九大理地惑)・木下繁夫(横浜市大)
- P140 最大速度に対する長周期成分の距離減衰特性について
 °山本容維・香川敬生(地盤研究財団)
- P141 京都大学宇治構内に設置されたボアホール地震アレイ記録を用いた堆積盆地の地盤震動特性
 °白川智香子・岩田知孝(京大防災研)
- P142 2003年十勝沖地震による河町における強震記録
 °三輪田吾郎・高井伸雄(北大工)・前田宜浩・野口科子・笹谷 努(北大理)
- P143 2004年紀伊半島南東沖地震による大阪堆積盆地の長周期地震動特性
 °岩城麻子・岩田知孝(京大防災研)
- P144 長周期地震動シミュレーションのための関東平野3次元地下構造モデル
 °東 貞成・佐藤浩章(電力中央研)
- P145 九州北部地域における小地震の地震動シミュレーション
 °山田伸之(福岡教育大)・山中浩明(東工大総理工)
- P146 2001年1月13日エルサルバドル地震の被災地サンタテクラ市における常時微動測定
 °元木健太郎・山中浩明・上田 遼・新才浩之・瀬尾和夫(東工大総理工)・佐間野隆憲(日本物理探査)・Walter SALAZAR(UCA)・Douglas HERNANDEZ・Carlos PULLINGER(SNET)
- P147 大阪平野南部域の微動H/Vスペクトル比の空間分布
 °上林宏敏(広島国際大)・川辺秀憲・釜江克宏(京大原子炉)
- P148 微動アレイ観測による大阪平野南部域の地下構造調査
 °宮腰 研・山本容維(地盤研究財団)・凌 魁群(ジオアナリシス)・釜江克宏・川辺秀憲(京大原子炉)・上林宏敏(広島国際大)

- P149 表面波探査 (SWS) による浅部地盤構造の推定
 ° 凌 魁群 (ジオアナリシス)・宮腰 研・山本容維 (地盤研究財団)・釜江克宏・川辺秀憲 (京大原子炉)
- P150 大阪盆地における 2 次元地下構造—SA インバージョンによる逆断層解析の試み—
 ° 井上直人 (京大理)・北田奈緒子 (地盤研究財団)・竹村恵二 (京大地熱)
- P151 愛知県知多半島北部域での微動探査
 ° 堀川晴央・吉見雅行・吉田邦一・関口春子・国松 直 (産総研活断層)・杉山長志・馮 少孔・
 徳丸哲義 ((株)中央開発)
- P152 松江平野の地盤構造 ° 足立正夫 (米工高)・元木健太郎・瀬尾和大 (東工大)・野口竜也・西田良平 (鳥大)
- P153 鳥取県東部の深部地盤構造
 ° 野口竜也 (鳥取大工)・秋田善弘 (国際航業)・曾原正隆 (三重県建技センター)・西村昌宏 (日本電炉)・
 西田良平 (鳥取大工)
- P154 重力探査を用いた台湾新竹市における基盤構造の推定
 ° 正坂拓也・高橋千佳 (東工大)・駒澤正夫 (産総研)・盛川 仁 (東工大)・Huei-Tsyr CHEN (NCU, Taiwan)

11月2日(木) 12:45~14:15 ポスター会場

ポスターセッション (P155-P225)

テクトニクス

- P155 衝突の 2 類型 (ヒマラヤとアルプス) と伊豆弧の衝突 ° 瀬野徹三 (東大地震研)
- P156 有限要素法による沖縄・マリアナトラフの背弧拡大過程の推定 ° 渡部 豪・田部井隆雄 (高知大理)
- P157 有限要素法による南部琉球弧における沖縄トラフ拡張と島弧方向拡張歪場の再現 ° 中村 衛 (琉球大理)
 歪集中のメカニズムと内陸地震の発生過程
- P158 新潟—神戸歪み集中帯における巨視的変形過程のモデル化に向けて
 ° 鷲谷 威・大園真子 (名大院環境)・飯尾能久 (京大防災研)
- P159 跡津川断層周辺変位場を説明する 2 つの断層すべりモデル ° 溝口一生・福山英一・山下 太 (防災科研)
- P160 跡津川断層系周辺における稠密 GPS 観測 (2)
 ° 大園真子・鷲谷 威 (名大環境)・橋本 学・細 善信・和田安男・尾上謙介・大谷文夫 (京大防災研)・
 竹内 章・道家涼介 (富山大理)・平原和朗 (京大理)
- P161 新潟—神戸歪み集中帯における跡津川断層帯付近の地震活動および地下構造
 ° 伊藤 潔・上野友岳・和田博夫・大見士朗・B. ENESCU (京大防災研)
- P162 跡津川断層域の地震波速度構造のイメージング—歪み集中帯合同地震観測
 ° 加藤愛太郎・岩崎貴哉 (東大地震研)・大見士朗 (京大防災研)・岡田知己 (東北大)・武田哲也 (防災科研)・
 中島淳一 (東北大)・歪み集中帯大学合同地震観測グループ
- P163 跡津川断層近傍の地震波の振幅減衰特性—DAT アレイを用いた遠地地震解析—
 ° 津村紀子・森 智之 (千葉大)・加藤愛太郎・蔵下英司・平田 直・岩崎貴哉・飯高 隆 (東大地震研)
- P164 GPS 観測から求められた新潟県中越地震の余効変動と断層モデル
 ° 平尾暁彦・松島 健 (九大地震火山)・竹内 章 (富山大)

地殻構造

- P165 強震データインバージョンによる北海道の LowQ 帯
 ° 中村亮一 (東電設計)・植竹富一・野口厚子 (東京電力)
- P166 SK-net 強震記録を用いた関東地方における Q_s 値の推定 ° 藤井謙介・泉谷恭男 (信州大院工)
- P167 防災科研 Hi-net のデータを用いた周波数別の Q 構造
 ° 関根秀太郎・松原 誠・小原一成・笠原敬司 (防災科研)

- P168 地震波形の特徴を利用した東北地方の地殻内高減衰域の検出 °長谷見晶子(山形大)・堀内茂木(防災科研)
- P169 S波スプリットングから見た小田原周辺の異方性構造 °本多 亮・棚田俊收(神奈川温地研)
- P170 西南日本のS波スプリットング °堀修一郎・中島淳一・長谷川昭(東北大院理)
- P171 大大特I:近畿地方における地震観測
°西村和浩・中尾節郎・三浦 勉・辰己賢一・平野憲雄・山崎友也・加茂正人・森麻衣子・富阪和秀・吉田義則・福嶋麻沙代・松浦秀起・澁谷拓郎・伊藤 潔・片尾 浩・廣瀬一聖・森下可奈子・中尾愛子(京大防災研)
- P172 大都市圏地殻構造調査:房総アレイ・構造探査データを用いた,地震波トモグラフィーによる関東地方の速度構造
°萩原弘子・五十嵐俊博・平田 直・酒井慎一(東大地震研)
- P173 首都圏下の速度構造の大大特統合モデル(4):地殻構造とプレート構造
°田中康久・三宅弘恵・額綱一起(東大地震研)
- P174 関東平野の地下地質構造モデルの改訂
°林 広樹(島根大)・柳沢幸夫・高橋雅紀(産総研)・関口渉次・笠原敬司(防災科研)
- P175 レシーバ関数解析から推定された大大特房総アレイ下の深部地殻構造
°五十嵐俊博・萩原弘子・平田 直(東大地震研)
- P176 日本列島弧中央部の三次元P波異方性速度構造
°石瀬素子(東大地震研)・小田 仁(岡山大自然科学)・三宅弘恵・額綱一起(東大地震研)
- P177 成層異方性構造のP波レシーバ関数 °長屋 守・赤澤宏和・小田 仁(岡山大自然科学)
- P178 Double-Difference Tomography法によるフィリピン海スラブの地震波速度構造の推定—その2—
°弘瀬冬樹(気象研)・中島淳一・長谷川昭(東北大)
- P179 紀伊半島下の不均質構造:マントル上昇流とフィリピン海スラブ °中島淳一・長谷川昭(東北大院理)
- P180 Tomographic imaging of the crust in Northern Kyrgyzstan
°Omuralieva AIYMYJAN・Junichi NAKAJIMA・Akira HASEGAWA (Tohoku Univ.)
- P181 日光・足尾地域の地震活動と速度構造 °萩原弘子・酒井慎一・五十嵐俊博(東大地震研)
- P182 2004年新潟県中越地震震源域南方における反射法地震探査
°伊藤 忍・山口和雄・加野直巳・大滝壽樹・横倉隆伸・牧野雅彦・住田達哉(産総研)
- P183 DD法により推定される2004年新潟県中越地震の断層面の詳細分布
°本堂周作・岡田知己・内田直希・中島淳一・長谷川昭(東北大理)・伊藤喜宏(防災科研)
- P184 反射法観測にて得られた宮城県北部地震の余震
°大滝壽樹・伊藤 忍・加野直巳・横倉隆伸・山口和雄(産総研)
- P185 広角反射法地震探査記録を用いたモホ面の深さの推定 °廣瀬一聖・伊藤 潔(京大防災研)
- P186 中国地方における地殻内および最上部マントルの反射体分布 °土井一生・西上欽也(京大防災研)
- P187 ensemble波形の相互相関関数を用いた上部地殻内震源間地震波速度構造推定
°伊良部秀輔・平原和朗(京大理)
- P188 日本列島沿岸海域における海底地質情報のデータベース化とその利用
°阿部信太郎(電力中央研)・荒井良祐(川崎地質)
- P189 変動地形と中深度ボーリングコアからみた国府津松田断層の完新世活動
°宮内崇裕(千葉大理)・小島 淳(出光興産)・上杉 陽(元都留文大)・佐藤比呂志(東大震研)
- P190 日本海溝北部域における地殻構造不均質
°藤江 剛・三浦誠一・小平秀一・金田義行・伊藤亜妃・高橋成実(海洋研究開発機構)・篠原雅尚・望月公廣・金沢敏彦(地震研)・日野亮太(東北大)・高波鐵夫(北大)・佐藤利典(千葉大)・植平賢司(九大)・笠原順三(日本大陸棚調査)
- P191 茨城県沖M7級地震震源域における地殻構造
°望月公廣・山田知朗・篠原雅尚・金沢敏彦(東大地震研)・佐藤利典・丸山友章(千葉大理)・日野亮太・対馬弘晃(東北大理)・高波鐵夫・町田祐弥・東 龍介(北大理)

- P192 房総沖・既存反射法データの再処理によるフィリピン海プレート上面形状の解析
 °佐野順平（千葉大自然）・津村紀子（千葉大理）・伊藤谷生・菊池伸輔・駒田希充（千葉大自然）・東中基倫・須田茂幸・川中 卓（地科研）
- P193 2005年房総半島南部海陸境界帯統合的地震探査における長大オフセット反射記録の解析（2）
 °駒田希充・津村紀子・伊藤谷生・宮内崇裕・佐藤利典・菊池伸輔・山本修治（千葉大）須田茂幸・東中基倫・川中 卓（地科研）
- P194 伊豆小笠原弧島弧－背弧系・リフト活動域を横断する地震波構造探査
 °海宝由佳・高橋成実・伊藤亜妃・瀧澤 薫・野 徹雄・小平秀一・金田義行（海洋研究開発機構）
- P195 南西諸島海溝北端部の沈み込み構造
 °西澤あずさ・金田謙太郎・片桐康孝（海洋情報部）・笠原順三（日本大陸棚調査）
- P196 4本の屈折法地震探査測線から求められた小笠原海台の地震波速度構造モデル
 °金田謙太郎・西澤あずさ（海上保安庁）・笠原順三（日本大陸棚調査）
- P197 反射法探査で得られた小笠原海台周辺の地殻構造（2）
 °山下幹也・高橋成実（海洋研究開発機構）・鶴 哲郎（コスモエネルギー開発）・野 徹雄・瀧澤 薫・金田義行（海洋研究開発機構）
- P198 伊豆小笠原弧－マリアナ弧会合部における地震波構造探査
 °三浦誠一・小平秀一・高橋成実・藤江 剛・佐藤 壮・山下幹也・海宝由佳・野 徹雄・瀧澤 薫・金田 義行（海洋研究開発機構）
- P199 反射法地震探査から見る伊豆小笠原前弧域
 °野 徹雄・瀧澤 薫・高橋成実・海宝由佳・小平秀一・金田義行（JAMSTEC）
- P200 理論波形評価による北部伊豆・小笠原島弧の地殻・最上部マントル内反射面の速度コントラスト
 °佐藤 壮・小平秀一・高橋成実・伊藤亜妃・金田義行（海洋研究開発機構）
- P201 西太平洋マーカー・ウェイク海山群域におけるマルチチャンネル反射法地震探査
 °渡邊奈保子・西澤あずさ・森下泰成・金田謙太郎・片桐康孝・及川光弘・加藤幸弘（海洋情報部）・外池邦臣（JCSS）
- P202 屈折法地震探査による西太平洋マーカー・ウェイク海山群下の地震波速度構造モデル
 °金田謙太郎（海上保安庁）・小平秀一・高橋成実（JAMSTEC）・西澤あずさ（海上保安庁）・金田義行（JAMSTEC）

地震活動

- P203 長期海底地震観測による三陸沖北部の地震活動
 °山田知朗・中東和夫・望月公廣・桑野亜佐子（東大地震研）・山下幹也（IFREE）・酒井慎一・篠原雅尚・金沢敏彦（東大地震研）・高波鐵夫・村井芳夫・雨宮晋一郎（北大理）・日野亮太・山本揚二郎（東北大理）・佐藤利典・丸山友章（千葉大理）
- P204 長期観測型海底地震計を用いた震源分布による日本・千島海溝会合部におけるプレート境界面の形状
 °桑野亜佐子・篠原雅尚・山田知朗・望月公廣・中東和夫・酒井慎一・金沢敏彦（東大地震研）・日野亮太（東北大理）・高波鐵夫（北大理）
- P205 房総半島沖でイメージングされた低速度層付近の地震活動について
 °木村尚紀・笠原敬司・武田哲也（防災科研）
- P206 神奈川県西部域における応力場の空間変化の推定
 °行竹洋平・棚田俊收・本多 亮・伊東 博・原田昌武（神奈川温地研）
- P207 2004年新潟県中越地震のやや低周波の余震
 °小菅正裕（弘前大理工）
- P208 御嶽山周辺の地震の震源再決定
 °山脇輝夫・中道治久・山崎文人・田所敬一（名大）
- P209 波形相関を用いて推定された深部低周波微動の空間分布の特徴
 °前田拓人・小原一成・汐見勝彦
- P210 海底地震計による臨時観測データを用いた2004年紀伊半島沖地震（前震・本震・余震）の震源再決定
 丹下 豪・°中村雅基・三上直也（気象大学校）・山崎 明（気象研）

- P211 近畿地方北部の微小地震の発震機構
 °片尾 浩 (京大防災研)・小笠原知彦 (日本電産)・飯尾能久 (京大防災研)
- P212 月齢と丹波山地の微小地震発生の相関—改良した強度関数による解析—
 °岩田貴樹 (統計数理研究所)・片尾 浩 (京大防災研)
- P213 2002 年鳥取県東部地震の前震活動
 °日浦 一・James MORI (京大防災研)
- P214 燧灘から高縄半島に分布する地殻中部地震
 °久保篤規 (高知大理地震観)
- P215 全国の地震活動評価—注意すべき地域の抽出に向けて—
 °鎌谷紀子・林元直樹 (気象庁地震火山部)・札幌管区气象台・仙台管区气象台・大阪管区气象台・
 福岡管区气象台・沖縄气象台

地震予知

- P216 近畿北部の地殻活動—地震予知に向けての評価—
 °梅田康弘・伊藤 潔・片尾 浩・森井 互・大谷文夫 (京大防災研)・松原 誠 (防災科研)
- P217 フィリピン海プレートの運動に関連して生じる近畿地方の広域地殻歪変化について
 °森井 互・尾上謙介・中村佳重郎・大谷文夫・細 善信・和田安男 (京大防災研)
- P218 GPS データで見る近畿地方北部の地殻ひずみ異常の特性について
 °大谷文夫 (京大防災研)
- P219 近畿地方北部における微小地震活動の静穏化
 °片尾 浩 (京大防災研)
- P220 脆性—塑性相互作用仮説に基づいた地震活動の静穏化の検証
 °菅谷勝則・平松良浩 (金大院自然)・古本宗充 (名大理)・片尾 浩 (京大防災研)
- P221 関東における中規模地震モデル (2) —a 値 b 値および b 値変化の組み合わせ
 °井元政二郎・山本菜穂子 (防災科研)
- P222 VHF 散乱波観測による地震予報の発信
 °森谷武男・茂木 透・高田真秀・西脇琴美 (北大理地震火山)
- P223 Development of ACROSS technology for earthquake prediction research at China Earthquake Administration
 Cantao ZHUANG (CEA)・°Weipeng HUANG・Toshiaki MASUDA・Mineo KUMAZAWA (Shizuoka Univ.)・
 Yuzo ISHIKAWA (JMA)

地球熱学

- P224 北海道の地温勾配図
 °秋田藤夫・鈴木隆広・高橋徹哉・柴田智郎・藤本和徳
- P225 Hi-net 坑井から求められた西南日本における地殻熱流量分布—非火山地域にみられる高熱流量異常—
 °松本拓己 (防災科研)